石巻市

文化財だより

第22号

もくじ

手漕ぎ船調査報告 (3) …… 1
平成四年度垂水囲貝塚埋蔵文化財調査報告 …… 20
平成四年度新金沼遺跡埋蔵文化財調査報告 …… 23
新指定文化財紹介 …… 24
旧町名表示石柱設置事業 …… 25
文化財標柱・説明板設置事業 …… 26
平成四年度文化財めぐり …… 27
北海道系の土器(続縄文土器)が発見されました …… 28
石巻市内所在指定文化財一覧 …… 31

石巻市教育委員会

手漕ぎ船調査報告(3)

平成三年度 手漕ぎ船調査報告

石巻市文化財保護委員　鈴木東行

一　調査目的

前年度に同じ。

二　調査期間と調査者

(1)　調査期間

予備調査（現存手漕船の所在の確認）

平成三年五月八日から六月三十日

本調査

平成四年一月二十日から二月二十日

(2)　調査地

北上川

元船場・水押・水明町・住吉・雲雀野・稲井真野川・藤の巻・北上運河

万石浦

沢田・流留・塩富町・万石町・祝田神明・梨木畑

(3)　調査者

石巻市文化財保護委員　鈴木東行

三　調査報告

南境元船場

(1)　現存している船三艘。全部「ナガシブネ」（「ナガシ」とも言う）で、一艘だけ現在でも漁に使用している。型は、二艘は一階棚であるが、一艘は二階棚である。（No.9 10 11参照）元船場後谷3番地中村長人氏および元船場後谷52の1三浦源之助氏は、石巻市にナガシブネを寄付してもよいとのことであった。

(2)　漁種漁場と船型

話者…中村長人氏（昭5・12・24生）

・船型と漕法…幅がせまく、シキの長さが長く、深さも浅いから、細長く川漁に適した船型をしている。船が長いのは、船が風に廻されないためである。ナガシ（ナガシブネ）は一人乗りでイマに座して網をうったり、あげたり、縄（な）をぶったり、あげたり、また、全長五尺位の短いネリガイで漕ぐ。竿も用いる。昭和55年5月プラスチックをかける。

注…イマとはミヨシ近くのシブキヨケのある間（間）

船外機を入れてから、漁場（仕事場…職場）までの通勤手段として速い船外機を用い、漁場での仕事（操業…網をまいたり、あげたりするため移動する）にはネリ櫂を用いる。航行と操業の道具の用途分化がはじまった。

注…昭和五十二年七月調査、『石巻市文化財だより』第8号－南境地区民俗資料民具収集調査報告－から生産B（漁労）を一部加筆して

・現在、中村氏がナガシブネで川漁をしている

漁種／旧暦	延縄	流し網	ナラッパ	八手網	備考
1					川魚は冬は沈礁の深みで冬眠状態に入っている。沈礁とは石垣がくずれないようにシバわくに大きな石を入れて沈めてできた礁（石商前あたり）で、かかりになるので網などかけれない（今はない）
2					
3					
4					
5				ふな・鯉・なまず・うなぎ	
6			うなぎ・（えび）		
7					
8					
9	うなぎ・なまず・鯉				
10		鮭（夜間）			
11					
12					
漁場・その他	開北橋より七ツ石まで晩にうって朝にあげる 1かご釣針は110本 糸 1年限り	石井閘門の対岸（砂原水底）。下流に向けて30mほど流す。昔からナガシブネを用いた	川の岸近くうなぎをとる。1日1回あげる。あげるとき三角タモですくう	洪水で水がにごった時のみ、逆流しているマキに仕かける（岸より）夏から秋にかけて	父の賢は流し網や延縄にナガシ船を使用し、コヨウ網や投網にはカッコー船を用いた

左に再掲する。

生産B（漁労）
（主として元船場の人々）

(1)網漁
サケアミ（流し網・地曳網）
流し網は旧七月十日より十二月にかけて石井閘門の対岸（砂原）に向けてナガシ舟（一人でこぐ）でかける。
マスアミ（流し網）…旧一月から五月にかけてとる。
コヨウアミ…昭和になってから、年中、折々にオーゲイ・鯉などカッコー（和舟）を利用し漁獲する。
トアミ（投網）…大正時代、麻であんだ網で年中、カッコーを用いて、ボラ・鯉を漁獲した。

(2)釣漁
延縄…七十～七十五間、六尺に一本の釣針、漁獲物はナマズ（年中）
ウナギは彼岸から十一月。スズキは旧四月から十月。鯉は彼岸から旧十月・セイゴは年中。ナガシ舟を用いる。
竿釣…三間半の竹竿、糸は五リン。

(3)筌
ウナギド…春彼岸より旧十月、晩にかけて朝あげる。
ナラッパ…旧九月から十月、昼・夜入れ、一日一回あげ、ウナギをとる。

(4)漁業の信仰
旧九月二十日から二十五日の鮭を大漁した日、舟をかけている人が宿に集まり、「お日待ち」と称して宿をとり、えびす大黒に鮭一匹を上げ拝み、酒と餅で宴をはる。
（話者　中村　賢　明34・12・19生）

▲元船場の船溜りに向けて水押岸の漁場より全速で帰る

▲ナガシブネ（元船場）　（中村長人氏所有）

▲平成３年７月早朝６時縄あげを終って帰路につく、ボンデンのそばにネリガイが見える

▲南境山崎より撮る、蛇田川前岸で延縄をイマであげている

水押

(1)　現存している船一艘、栗原寅男（水押27の2）が所有。丈二の幅が三尺二寸五分、深さが九寸三分の小和舟である。イッケダナ（一枚棚）で持主不明で市役所水産課よりもらう。（No.12参照）

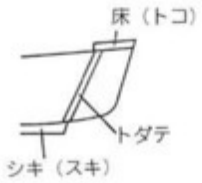
水明町（旧袋谷地）船溜り

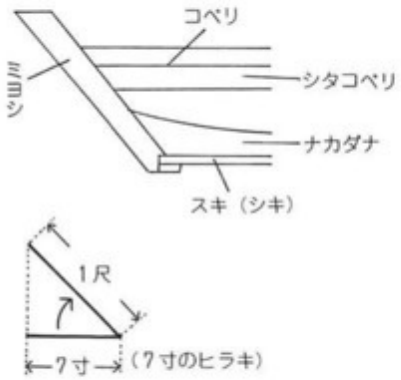
(1)　現存の手漕船（和船）七艘
（No.13～No.19参照）

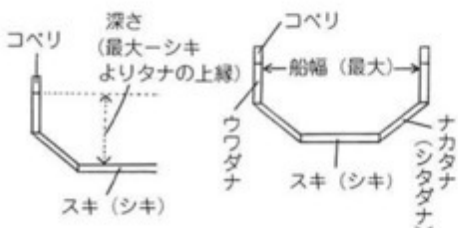
カード番号	地方名（型）	所有者	住所
No.13	カツコ（二枚棚）	鈴木清二	水明南2-9-17
14	カツコ（二枚棚）	後藤嘉明	水明南1-8-18
15	カツコ（二枚棚）	広田良男	牡鹿町大原
16	ナガシブネ（二枚棚）	袋谷地漁業組合	
17	カツコ（二枚棚）	広田道良	水明南1-11-23
18	カツコ（二枚棚）	佐藤一雄	水明南1-6-35
19	タナブキ	鈴木浩一	水明3

㊟…・現在使用している。それ以外はオカ（陸）にあがっている

(2)　漁種漁場と船型
話者…佐藤一雄（明44・10・17生）
船型…カッコー（二枚棚型）
寸法　シキの長…18尺5寸
船　幅…4尺1寸
深　さ…1尺2寸
シキの厚さ…2寸
タナの厚さ…1寸2分
ミヨシのヒラキ…8寸
トダテのヒラキ…7寸5分
（注…寸法は実測）
（No.18参照）

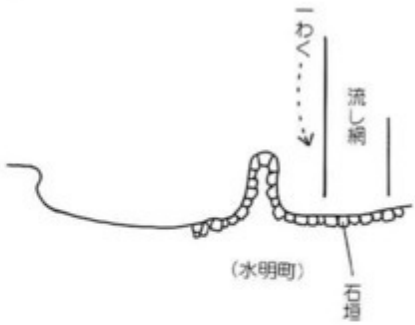


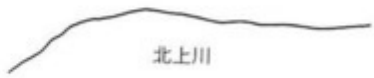




注…後藤慶三郎氏（明44・10・17生、水明南1-8-18）の話しによるとカッコ船にオモテドリ（熟練の老漁師）とトモドリ（櫓オシ…少年や若物）の二人が乗り、流し網をまいて行く。また待船（まつぶね）と言って順番制（組合員）をとり、1艘が流して鮭をあげると次の順番の人が流し網をしかけた。

広田道良氏の言によると、うなぎ筒（ど）・ならっぱもしかけてうなぎ（えび）をとった。投網で住吉前や袋谷地でぼらをあげ、寒鯉も鉄橋の上から七つ石までの深みでとった。佐藤一雄氏は、一晩で50貫もリヤカーで市場にあげた。





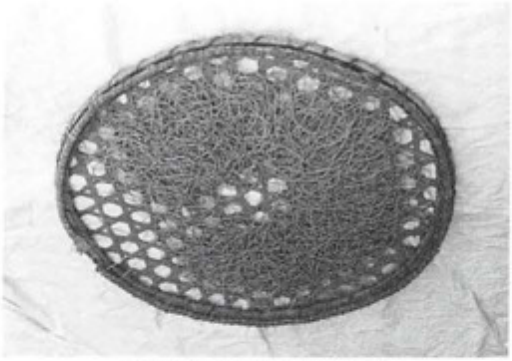
漁種 ＼ 旧暦	延縄	流し網	刺し網	投網	サデ網	ウナギウケ
1	おおがい		ます	ぼら		
2						居すわっているうなぎ
3	鯉・なまず・うなぎ				白魚	
4						
5						
6						
7						
8						
9		鮭				
10						下りうなぎ
11						
12	おおがい					
漁場・その他	石井開門 ↕ 住吉公園	・袋谷地前 ・待船で ・12年前一わく	一般に春はます秋はさけ	3間も投げる二才ぼら袋谷地前住吉公園	夜はサーバイトをたいて船からサデ網ですくう	春のは昼間かき秋のは夜間（大潮）

▲旧袋谷地船溜り

▲カッコー（二枚棚）（佐藤一雄氏所有）

▶投網（石巻文化センター蔵）

▼ウナギカギ（佐藤一雄氏所有）



▲延縄カゴ（広田道良氏所有）

▲ゴカイスクイ（流れゴカイは旧暦12月3日～4日、正月4、5日に流れるタモでとる。夕方かけて朝早くあげる。生かしておく）

(1) 住吉

現存手漕船（和船）…二艘（No. 20 21参照）

所有者…玉木吉雄（住吉2-16）

玉木造船化工㈱

ダンベ（二階棚）…プラスチックでおおう。田代島の大網で使用したもの

ナガシブネ（一階棚）…上流より漂着

雲雀野（文化センター前船溜り）

(1) 現存和船…一艘（No. 22参照）

所有者は宍戸米男（雲雀野一丁目11－43）、戦時中、長浜↓河口－大曲浜で、地曳網をやり、おおうがい・せっぱ・ばら・すずきをとる。また目の小さい地曳網で旧暦七月八月白魚（子）・九月十月白魚（親）を漁獲、ここ10年は雲雀野海岸で四月五月（旧暦）に刺網でしゃこやえびをとる。

カッコー（一枚棚　シキの長さ23尺、涌谷町　大友俊雄大工造船）

稲井

真野川には和船は一艘も見当たらなかった。また、藤の巻の岸にプラスチックでおおわれた廃船一艘があった。

北上運河（貞山堀）

水没しつつある一階棚の川船が二艘見うけられた。

万石浦宇田川（通称「オガワッコ」「赤堀」）

船溜り

(1) 現存手漕船（和船）…8艘

カード番号	地方名（型）	所有者	住所
No. 23	ダンベ（平棚）	横浦広蔵	千石町11－33
24	ダンベ（二枚棚）	佐藤源寿	三和町8－11
25	ハンタナ（平棚）	菊地衛三郎	塩竈町1－3－1
26	イッケダナ（二枚棚）	横浦広蔵	千石町11－33
27	イッケダナ（二枚棚）	菊地富士夫	塩竈町1－4
28	イッケダナ（二枚棚）	菊地徳授	塩竈町41－1
29	イッケダナ（二枚棚）	内海茂	念仏壇41－1

注…タンベは種ガキ運搬船・イッケダナはカジカ釣り、ナマコとり、ワカメとり、が主である。ノリツミにも行く。

ハンタナ所有主の菊地衛三郎は、ノリツミ運搬の本船にこの船を用い、また、タネガキ運搬にも利用したことがあった。現在、山仕事がない時は佐須の浜、防波堤前の外洋でカナオシてアサリをとっている。

(2) 船型（寸法）

ダンベ…シキ長（20尺－18尺）
　船　幅（5尺4寸）
　深　さ（2尺－1尺8寸）
　ミヨシのヒラキ（7寸）
　棚は半棚（はんたな）・二階棚のタナヅキである。

イッケダナ
　シキ長（1丈3尺－1丈2尺
　通称丈三（じょうさん）とよぶ）
　船　幅（3尺6寸－3尺）
　深　さ（1尺）
　ミヨシのヒラキ（7寸）
　トダテのヒラキ（4寸）

注…上記の船型は主として地元の船大工が造船したものである。伝統的型であり、寸法である。

菊地富士夫・菊地徳授・内海茂（二艘中一艘）所有のイッケダナは五六年前塩竈の赤間コウジよりノリトリに使用した船を買ってきたものである。塩竈・松島方面のノリツミ船は大正・昭和初め東京大森のノリトリ船（養殖ノリツミ船）まねて造った全く従来の型とちがった船で新型で、伝統的とは言いがたい。（三崎一夫氏のご教示による。）

沢田・流留

(1) 現存手漕船（和船）、流留で一艘、物置がわりにオカにあった。

(2) 漁種・漁場と船型

船型と寸法

タナヅキ
　スキ長（1丈8尺、通称丈八（じょうはつ）という）
　肩　幅（4尺5寸）
　深　さ（1尺7寸－8寸）

イッケッコ
　スキ長（丈5－丈6）
　肩　幅（4尺2寸）
　深　さ（1尺2寸－3寸）

両方ともスパント（「マツラ」）がなくハリキリでもたせている。

漁種・漁法

話者…三浦徳郎（大正5・12・1生、流留字町26）

漁種／旧暦	かじか釣り	1枚延縄(底)	うなぎかき	ツボッケ	うなぎつき	うなぎひっかけ	スダテ	なまこひっかけ	刺網	(釣針40本)延縄(浮)
1										
2										
3							ばら			
4		すいはも		4月末 うなぎ		夜間	さより・たなご・こい・すえ・ねう・おおがい		さより（夜間）	昼間
5										
6										
7					昼間					
8										
9										
10		かじか	底にもぐっているうなぎ							
11							ばら			
12										
その他船形と漁場	イッケダナ（1人乗り）ジュヅコ釣り	タナヅキ（2人乗り）1人あげる他の1人一櫓こぐ	主としてタナヅキ（1人乗り）	イッケダナ（1人乗り）竹筒に入る	タナヅキ（イッケダナ）（2人乗り）昼間ヤスで突く	イッケダナ（1人乗り）夜間カーバイトをたきおよいでいるのをかける	タナヅキ（1人か2人乗り）	イッケダナ（1人）	タナヅキ（2人）夜、何回もあげる	タナヅキ イッケダナ（1人~2人）餌はえびをむく

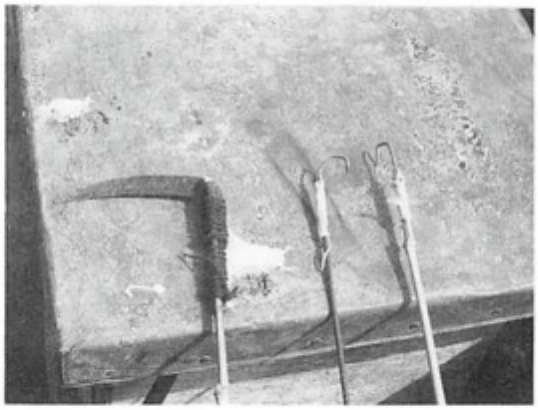
祝田カキ処理前空地

(1) 現存手漕船（和船）…調査ずみ1艘
未調査…6艘
調査ずみ…祝田71-5、阿部嵩氏所有
ダンベ（シキ長20尺、幅5尺2寸5分、深さ1尺9寸、ハンタナ型、祝田75-9 須田円吉大工、昭和45年造船、2人乗り、種ガキ運搬船）（No.31参照）

梨木畑

(1) 現存手漕船（和船）…1艘
イッケッコ（横山国治氏所有、梨木畑24の1）
注…船型その他漁種などはNo.32を参照されたし。

▶万石浦宇田川（「オガワッコ」「赤堀」）の船溜り



◀ナマコトリカギとワカメキリガマ

▼カジカとり用背板（はいた）と調節（流れの）竿

四 調査結果から

平成元年からはじまった調査も平成3年で終了した。平成元年・2年は半島の調査をした。特に平成2年に祝田の阿部忠雄大工から江の島サッパの造船について採訪、その結果が平成3年9月の文化センター展示公開の運びになった。

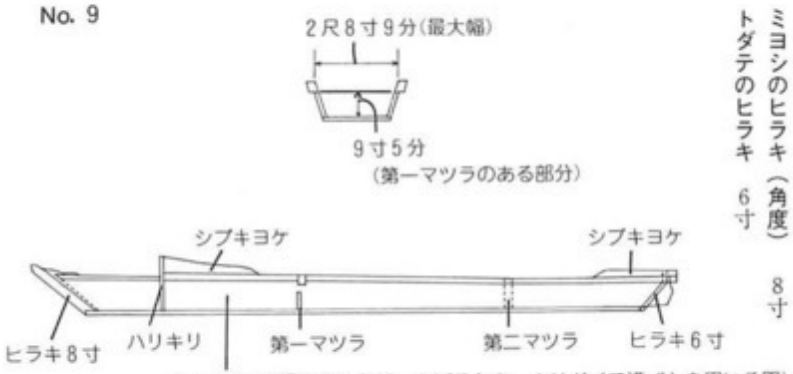
平成3年は北上川、万石浦の現存手漕船の調査をした。北上川、万石浦、合せて現存の船（調査ずみ）24艘と予想に反して多かった。これで半島方面8艘と合せて調査カードNo.32となり、一応の完結をみた。島の、そして浜、川の、浦の漁師さんや船大工さんたち、多忙な時間をさいて調査に応じてくれ、唯々、感謝あるのみである。今後も『足踏実地』－司馬光－の精神で各種伝統的文化の調査に邁進したいと思う。

五　現存手漕船

調査地　石巻市南境元船場後谷3番地
本船種の地方名　ナガシ（ナガシブネ）
所有者　中村長人
電話　九六－九一五三
寸法　シキ長…19尺2寸3分
　船幅…2尺8寸9分
　深さ…9寸5分
造船年月　昭和40年代（昭55 5 27プラスチックをかける）
登録番号　MG 6-18 27（宮城県）
船大工　飯野川方面の大工（出張してきてつくる…出職）
本船種の分布範囲　北上町・登米・飯野川・鹿又・石巻市水明町
何人乗り　一人乗り
漕法　昔　手こぎ（ネリガイを使用）。船外機をとりつけてから漁場まで船外機を用い、漁の操業にネリガイを用いる。櫓なし。
使用漁種　うなぎ・鯉・なまず…延縄
　鮭…流し網（現在やらず）
漁場の自然条件　開北橋より七つ石まで
注
・延縄は旧4月～旧10月末まで、晩にうって、朝にあげる。
・流し網の鮭漁は、旧9月なかばより12月なかばまで（場所は石井閘門対岸）…現在やっていない。
調査者　鈴木東行
年月日　平成3年6月30日
　平成4年2月20日
主材　杉
造船日数　一人で8日
シキの厚さ　1寸5分
タナの厚さ　1寸
トダテの厚さ　1寸
ミヨシのヒラキ（角度）　8寸
トダテのヒラキ　6寸

▲特徴…風に圧されないようにシキの長さが長い

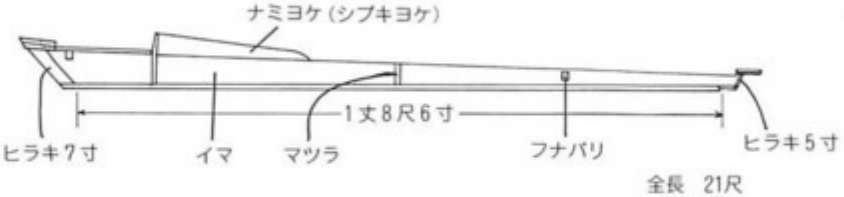
No. 9

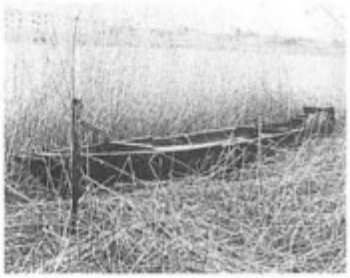


No. 10　▲石巻文化センター蔵

調査地　石巻市南境元船場後谷3番地
本船種の地方名　ナガシ（ナガシブネ）
所有者　中村長人
電話　九六－九一五三
寸法　シキ長…18尺6寸
　船幅2尺（マツラで）
　深さ…5寸7分（マツラで）
造船年月　昭和37 38年頃（父賢（さかし）注文）
船大工　石井閘門付近の大工
本船種の分布範囲　飯野川・鹿又→南境の元船場
何人乗り　一人乗り
漕法　ネリガイで漕ぐ
使用漁種　流し網（鮭、鱒）
　延縄（うなぎ・鯉・なまず）
漁場の自然条件　流し網…石井閘門の対岸の砂原から下流30㍍（『石巻市文化財だより』8号参照）
調査者　鈴木東行
年月日　平成4年2月20日
主材　杉
シキの厚さ　1寸5分
タナの厚さ　1寸
トダテの厚さ　1寸
ミヨシのヒラキ（角度）　7寸
トダテのヒラキ　6寸

（コベリはシブキヨケよりトモノ方はなくなっている。）





▲石巻文化センター蔵

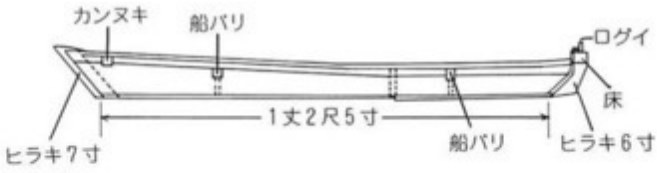
No. 11

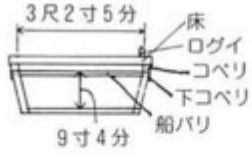
調査地 石巻市南境元船場後谷52−1
本船種の地方名 ナガシブネ（タナヅキ…2枚棚）
所有者 三浦 源之輔
電話 九六−九一六三
寸法 シキ長…18尺5寸
船幅 第1ミヨシ（前から）マツラ…2尺9寸
深さ…（最大）1尺2寸5分
（最小）8寸5分
船大工 大街道の大工
本船種の分布範囲 定川、南境の北上川
何人乗り 一人乗り
漕法
船外機に入る前はネリガイと竿で
使用漁種 鮭のナガシ網、延縄、うなぎ筒、うなぎかぎ、ならっぱ
漁場の自然条件 七つ石から開北橋まで
調査者 鈴木 東行
年月日 平成3年7月2日
平成4年2月20日
主材 杉
ミヨシのヒラキ（角度） 8寸
トダテのヒラキ 4寸

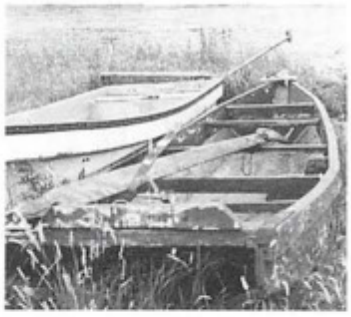
▲石巻文化センター蔵

No. 12

調査地 石巻市字水押27の2（旧袋谷地一（いつ）わく）
本船種の地方名 イッケダナ
所有者 栗原 寅男
電話 九五−五三七九
寸法 シキ長…1丈2尺5寸
船幅…3尺2寸5分
深さ…9寸4分
造船年月 水産庁の船が石巻沖でひろって市役所水産課に届ける。それを譲渡
調査者 鈴木 東行
年月日 平成3年6月30日
平成4年2月8日
主材 杉
ミヨシのヒラキ（角度） 7寸
トダテのヒラキ 6寸





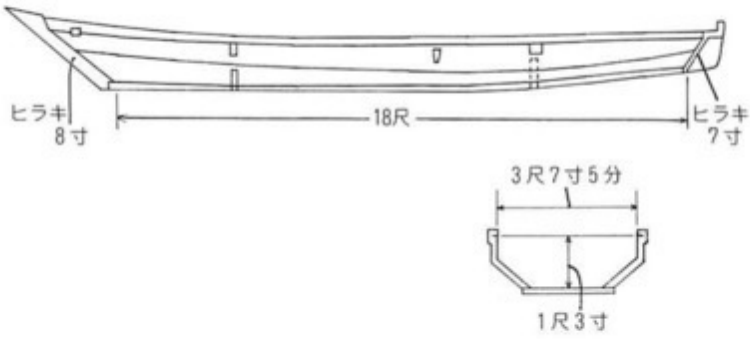


No. 13

調査地 石巻市水明南二丁目9−17
本船種の地方名 カッコ（二枚棚）
所有者 鈴木 清二（昭24 2 23生）
電話 九三−五八八五
寸法 シキ長…18尺
船幅…3尺7寸5分
深さ…1尺3寸
造船年月
昭和35年代チリ地震津波後、及川守（元倉1−10−5）水明町相沢造船所でつくる。その後及川守よりゆずられる。
船大工 相沢永太郎（水明町）（現在居ない）
何人乗り 一人か二人
漕法 櫓と船外機
使用漁種 川漁とカレイ曳
漁場の自然条件
川…住吉の巻石（まきいし）から七つ石まで
海…河口でカレイ曳
及川守（清二）談…櫓…イレハラ（かた木）、ロ（櫓）杭（グイ）もかた木を用いていたが、15年前イレハラのかわ

りに「オーフ」と呼ぶ[illegible]状の金具、櫓ぐいは[illegible]状の金具を自分でつくって用いるようになつた。荒い波（海）で上げられない。…はずれないでむしろ前より漕ぎ易い。

調査者　鈴木東行
年月日　平成3年6月30日
　　平成4年2月8日
シキの厚さ　1寸5分
タナの厚さ　1寸
トダテの厚さ　1寸5分
ミヨシのヒラキ（角度）　8寸
トダテのヒラキ　7寸



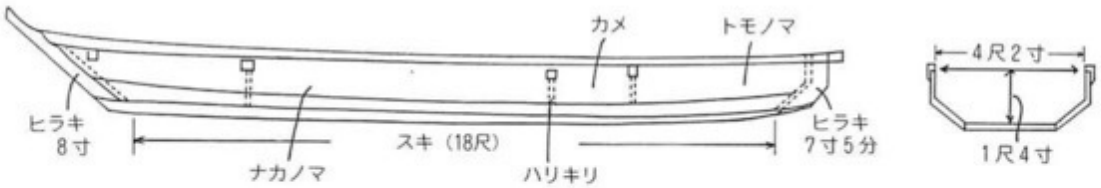
調査地　石巻市水明南一丁目
本船種の地方名　カワブネ（カッコ）
所有者　後藤嘉昭（昭12101生）
電話　九三－五五七七
寸法　シキ長…18尺
　　船幅…4尺2寸
　　深さ…1尺4寸
造船年月　昭和38年5月10日（水明南1-8-18父後藤慶三郎より50年代にゆずられる）
登録番号　MG6-544（宮城県）
船大工　善七造船所（湊か？）
本船種の分布範囲　水明町（旧袋谷地）

漁法	何人乗り	漁種
延縄	一人（二人）	かじか・鯉・うなぎ・なまず
流網	二人か一人	鮭（秋）
投網	二人（アミブチ トモフリ（トモドリ））	主としてボラ
うなぎかぎ	一人	旧2月～3月 旧10月～11月
うなぎ筒	二人	旧4月～10月半

漕法　昭和50年以前、父慶三郎の時代は櫓・櫂。今は船外機と櫓。
漁場の自然条件　・漁業権住吉の巻石から鹿又の手前の七つ石まで

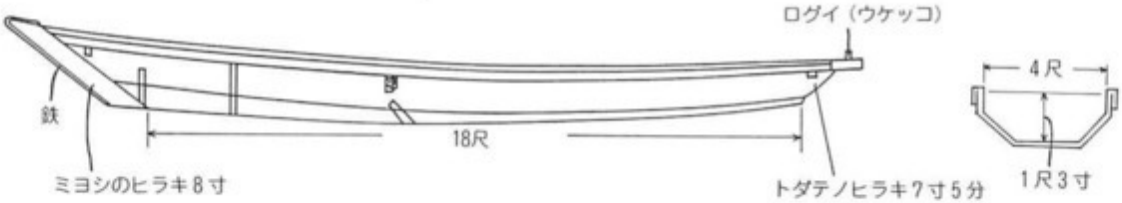
調査者　鈴木東行
年月日　平成3年6月30日
　　平成4年2月8日
主材　杉（赤杉）
別材　ミヨシ…ケヤキ　床…松
ミヨシのヒラキ（角度）　8寸
トダテのヒラキ　7寸5分
注…三・四人で夏期、地曳網でせっぱ・おおがいをとったこともある。

No. 14　▲左より2番目、MG 6－544



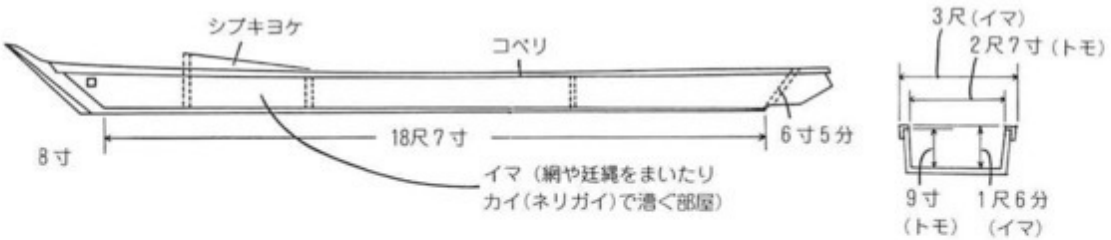
No. 15　▲右より二番目

調査地　石巻市水明南一丁目
本船種の地方名　カッコ
所有者　広　田　良　男（牡鹿町大原）
寸　法　シキ長…18尺
　船幅　4尺
　深さ…1尺3寸
調査者　鈴　木　東　行
年月日　平成3年6月30日
　平成4年2月8日
ミヨシのヒラキ（角度）　8寸
トダテのヒラキ　7寸5分



No. 16　▲右より一番目

調査地　石巻市水明南一丁目
本船種の地方名　ナガシ
所有者　北上追波漁業協同組合支部袋谷
　地漁業共同組合
寸　法　シキ長…18尺7寸
　船幅…3尺（イマ）（最大）
　2尺7寸（トモ）
　深さ…1尺1寸6分（イマ）（最大）
　9寸（トモ）
造船年月　鹿又の漁師が置いていたのを
組合が保管
調査者　鈴　木　東　行
年月日　平成3年6月30日
　平成4年2月8日
主材　杉
ミヨシのヒラキ（角度）　8寸
トダテのヒラキ　6寸5分



調査地　石巻市水明南

本船種の地方名　カッコ（二ゲン棚…二枚棚）

所有者　廣田道良（昭5・12・24生）

電話　九六－五五五一

寸法　シキ長…16尺5寸
船幅…4尺1寸
深さ…1尺2寸6分

造船年月　昭和35年3月16日

登録番号　MG-54-5

船大工　相沢永太朗

本船種の分布範囲　袋谷地・住吉

何人乗り　二人乗り

漕法　櫓　50年頃より船外機使用

使用漁法	魚種	月（旧暦）
延縄	うなぎ なまず 鯉	四月から十月
刺網	鮭	九月から十月
うなぎ筒	うなぎ	四月～十月半ば
投網	ぼら 寒鯉	十二月から三月
ならっぱ	えび うなぎ	えび　四・五月 うなぎ　七・八月 えび　九月～十二月

漁場の自然条件　七つ石～住吉公園の巻石

・櫓ぐいは鉄具。

No. 17

調査者　鈴木東行

年月日　平成3年6月30日
平成4年2月・8日21日

主材　杉

別材
ミヨシ…栗　ハリ…カシ　床…杉の赤板

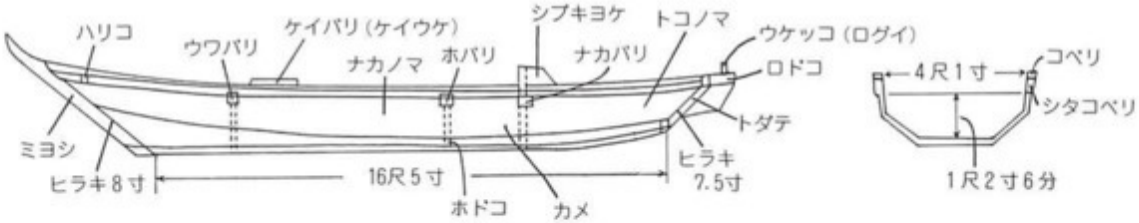
シキの厚さ　2寸

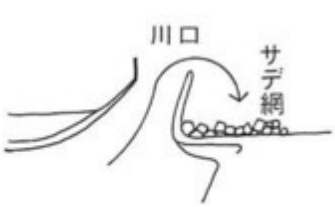
タナの厚さ　1尺2寸5分

トダテの厚さ　2寸

ミヨシのヒラキ（角度）　8寸

トダテのヒラキ　7寸5分





調査地　石巻市水明南一丁目6－35

本船種の地方名　カッコ（二枚棚）

所有者　佐藤一雄（明44・10・17生）

電話　九五－〇七〇八

寸法　シキ長…18尺5寸
船幅…4尺1寸
深さ…1尺2寸

造船年月　昭和36年3月10日

登録番号　MG-53-2

船大工　相沢永太朗（水明町相沢造船）この前の船は湊田町の善七大工であった

本船種の分布範囲
石巻市湊・袋谷地（水明町）

何人乗り　二人乗り（親と子）

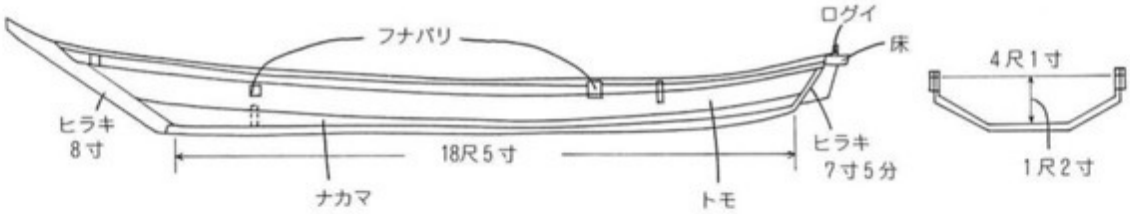
漕法
櫓と櫂（昭和50年に船外機を入れる）

使用漁種　延縄（うなぎ・なまず・鯉・おおがい）、流網（鮭）、刺網（ます）、サデ網（旧三月～四月夜どぼして白魚をサデ網ですくう）、投網（旧12月末より2月まで二歳ぼら）、うなぎかき

漁場の自然条件
川…住吉公園（巻石）→石井閘門

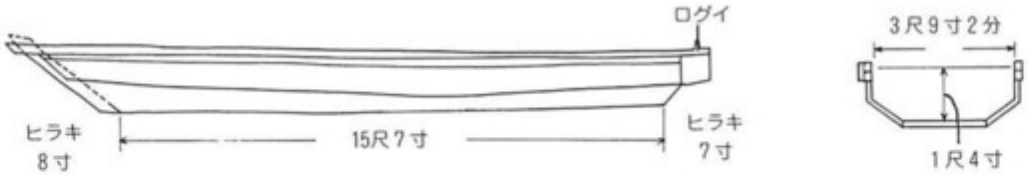
海…（白魚すくい）門脇の西突堤の右
ロぐいはケヤキ
調査者　鈴木東行
年月日　平成3年6月30日
　　平成4年2月20日
主材　杉　1尺×22尺もの2本
主材　ミヨシ…檜　床（けやき）
　船ばり（はり）…（くり）
造船日数　一人で15日
シキの厚さ　2寸
タナの厚さ　1寸2分
トダテの厚さ　2寸
ミヨシのヒラキ（角度）　8寸
トダテのヒラキ　7寸5分

No. 18



調査地　石巻市水押三
本船種の地方名　タナヅキ
所有者　鈴木浩一
電話　九六ー六一八五
寸法　シキ長…15尺7寸
　船幅…3尺9寸2分
　深さ…1尺4寸
何人乗り　一人か二人
漕法　櫓と船外機
使用漁種　川漁
漁場の自然条件　内海橋の下から開北橋
の上まで
調査者　鈴木東行
年月日　平成4年2月20日
ミヨシのヒラキ（角度）　8寸
トダテのヒラキ　7寸

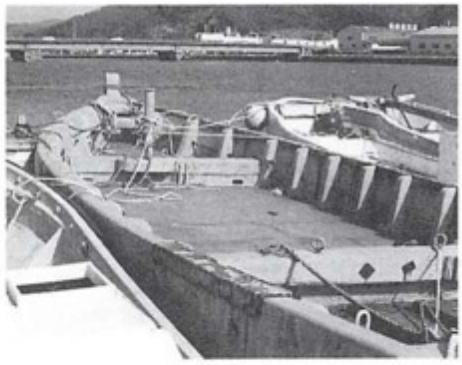
No. 19



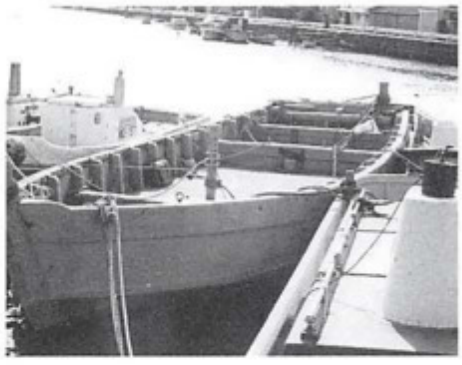
No. 20

調査地　石巻市住吉町二丁目16（玉木造船化工KK）
本船種の地方名　ナガシ
所有者　玉木吉雄
電話　二二一二〇二〇
寸法　シキ長…18尺6寸
　船幅…三尺
　深さ…九寸（船の中央）
造船年月　二三年前上流より流れてきたのを保管。
本船種の分布範囲　鹿又・元船場
何人乗り　一人
漕法　ネリ櫂
使用漁種　川漁
調査者　鈴木東行
年月日　平成4年2月8日
主材　杉
タナの厚さ　1寸一分
ミヨシのヒラキ（角度）　8寸
トダテのヒラキ　5寸

調査地　石巻市住吉町二丁目16（玉木造船化工KK）
本船種の地方名　ダンベ
所有者　玉木吉雄
電話　二二一二〇二〇
寸法　シキ長…34尺
　船幅…9尺6寸5分
　深さ…3尺2寸5分
造船年月　昭和30年代（40年代玉木造船所でFRP）田代漁協より譲渡
本船種の分布範囲　牡鹿半島の各浜
何人乗り　（現在使用せず）3～4人、30年代15～16人
漕法
昭和20年代　櫓2丁（二人びき）櫂6丁
昭和30年代　動力船曳航
使用漁種
（大網用）マグロ、ブリ、イワシ、鯛
漁場の自然条件　田代島西岸
調査者　鈴木東行
年月日　平成4年2月8日
主材　杉
別材　ミヨシ・タツ…ケヤキ、スキ・マツラ…栗かケヤキ、床…松
石数　32石
造船日数　一人で85日
シキの厚さ　2寸
タナの厚さ　1．5寸
トダテの厚さ　2寸
ミヨシのヒラキ（角度）　7寸
トダテのヒラキ　5寸
注…30年代のダンベ（木造船）は、『石巻市文化財だより』20号手漕ぎ船調査報告(2)掲載のNo.8参照

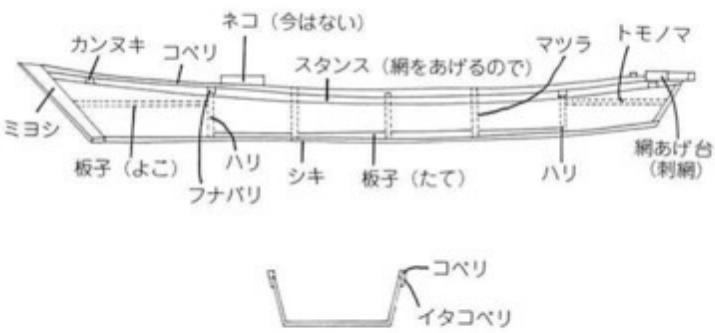


No. 21



No. 22

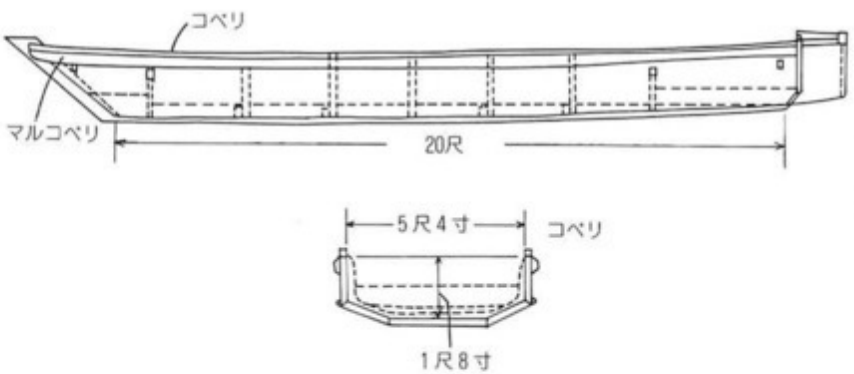
調査地　石巻市雲雀野一丁目11－4
日本水難救済会宮城支部石巻救難所
本船種の地方名　イッケダナ、サッパ
所有者　宍戸米男
電話　九五－〇二一六
寸法　シキ長…23尺
船幅…4尺5寸
シキ幅3尺4寸
深さ…1尺7寸
造船年月　昭和46年3月5日
登録番号　MG3-20221
船大工　大友俊雄（涌谷町）
本船種の分布範囲　迫川・北上川
何人乗り　三～四人
漕法　櫓・櫂と船外機
使用漁種　地曳網（おおがい、せっぱ…年中）、刺網（最近）しゃこ
漁場の自然条件
長浜－河口－大曲（遠浅で砂底）
…地曳網
ひばりの海岸の沖（最近）…しゃこえび・
地曳網…ぼら（旧の3、4月）
せっぱ
白魚の子（旧の7、8月）
…（網は小）
ぼら（船溜10月）
すずき（旧7、8月）
白魚の親（旧9、10月）



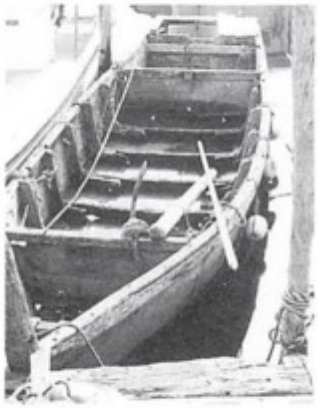
調査者　鈴木東行
年月日　平成4年2月8日・30日
主材　杉
別材
ミヨシ…栗　フナバリ…ケヤキ　床…杉
石数　3石
タナの厚さ　1寸8分
ミヨシのヒラキ（角度）　7寸
トダテのヒラキ　3寸

No. 23

調査地　石巻市万石町11の33
本船種の地方名　ダンベ（半棚）
所有者　橋浦広蔵
電話　二四－二八〇七
寸法　シキ長…20尺
船幅…5尺4寸
深さ…1尺8寸
造船年月　昭和48年頃
船大工　祝田の阿部忠雄
師匠の住所　父の忠之丞
本船種の分布範囲　万石浦
何人乗り　一人か（二人）
漕法　船外機
使用漁種　カキつみ運搬船（種ガキ用）
漁場の自然条件　万石浦
調査者　鈴木東行
年月日　平成4年2月8・10日
主材　杉

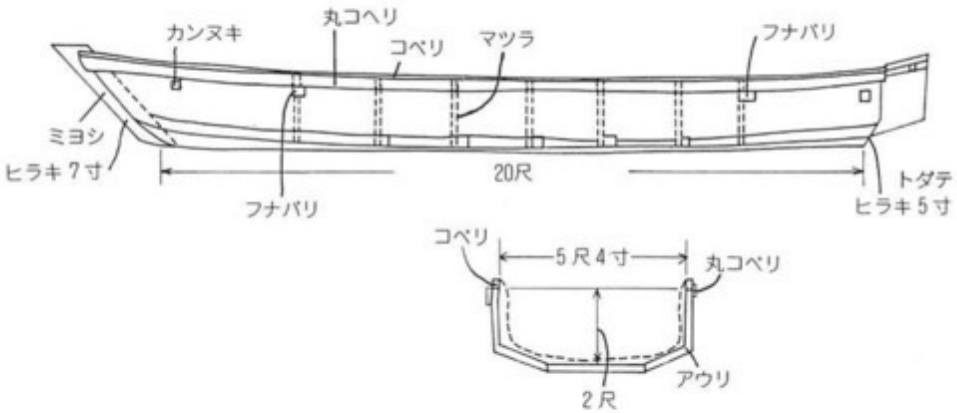


別材　ミヨシ、マツラ（曲材）けやき
石数　4石半
造船日数　一人で23日
シキの厚さ　2寸
タナの厚さ　上棚…1寸1分
中棚…1寸1分
トダテの厚さ　2寸
ミヨシのヒラキ（角度）　7寸
トダテのヒラキ　6寸



No. 24

調査地　石巻市塩富町字田川(「オガワッコ」)船溜
本船種の地方名　ダンベ（タナヅキ）
所有者　佐藤源寿
所有者住所　三和町8－15
電話　二四－〇五四〇
寸法　シキ長…20尺
　船幅…5尺4寸
　深さ…2尺
造船年月　昭和38年頃
船大工
　渡波松原町28遠藤四三男→（息子孝）
師匠の住所
　石巻市侍浜→祝田　杉浦利惣兵衛
本船種の分布範囲　田代島・万石浦
何人乗り　三～四人
漕法　櫓　船外機
使用漁種
　のりつみ、かきとり、種ガキ運搬
漁場の自然条件　万石浦→長浜
調査者　鈴木東行
年月日　平成4年2月20日

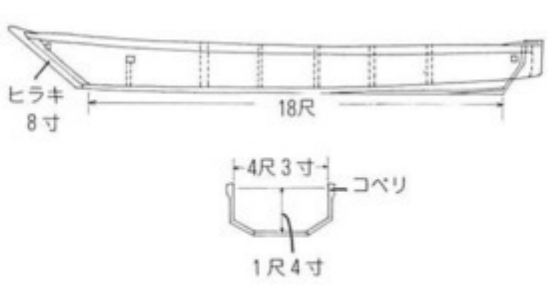


主材　杉
シキの厚さ　2寸
タナの厚さ　1．5寸
トダテの厚さ　2寸
ミヨシのヒラキ（角度）　7寸
トダテのヒラキ　5寸

▲カナオをつんでアサリとり用船にかわる。竿で支えて海底にいるアサリをくまで網でかきあげサデでとる。これをカナオシと言う。

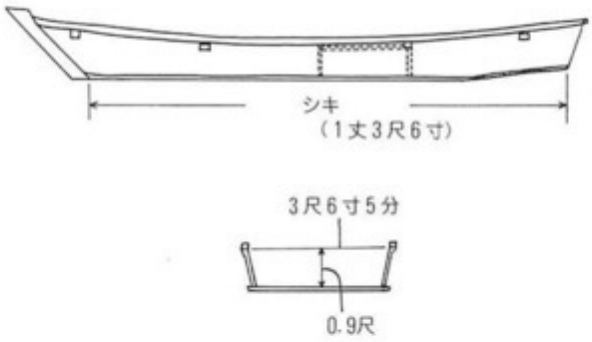
No. 25

調査地　石巻市塩富町字田川(「オガワッコ」)船溜り
所有者　菊地衛三郎(兄昭3生)
　弟　中八(昭8・2・16生)
所有者住所　塩富町一丁目3の1
電話　二四－一九四〇
寸法　シキ長…18尺
　船幅…4尺3寸（第2マツラ）
　深さ…1尺4寸（第3マツラ）
　1尺5寸（第1マツラ）
造船年月　20年中古で買った。
何人乗り　二人乗り
漕法　船外機
使用漁種
　のりつみ運搬・アサリかき船
漁場の自然条件
・のりつみ運搬…もとは、ヤンマー6馬力の発動機で小和船を曳きのりつみをしていたが、かかりが悪いので20年前から船外機をつけたこの船にした。昭和33年に祝田の阿部忠雄大工に丈3の小和船をつくってもらった。この船が本船として（のりつみ機械をつみ）小和船（イッケダナ）を引ばってのり筏までいき、本船からのりかいて台の間をめぐりながら小船でのりつみをした。本船にうつして引っぱってもらって帰ってきた。種ガキ運搬になるが種ガキはやらなかった。のりつみは万石浦、長浜沖。
・兄は山仕事がない時は佐須の浜防波堤前の外洋でカナオシ（くまで網で海底をかいてとる。）してアサリをとる。
調査者　鈴木東行
年月日　平成3年6月10日
　平成4年2月8日
主材　杉
別材　ミヨシ…けやき
　マツラ…松　床…けやき
シキの厚さ　1寸5分
タナの厚さ　1寸
トダテの厚さ　1寸5分
ミヨシのヒラキ（角度）　8寸
トダテのヒラキ　6寸



No. 26

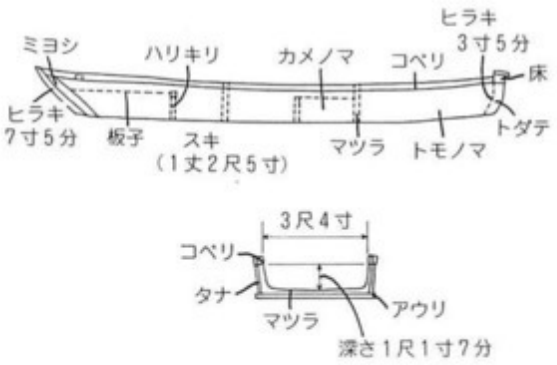
調査地 石巻市万石町
本船種の地方名 イッケダナ
所有者 橋浦広蔵(大9・3・30生)
所有者住所 万石町11の33
電話 二四ー二八〇七
寸法 シキ長…1丈3尺6寸
船幅…3尺6寸5分
深さ…0.9尺
造船年月 昭和60年
船大工 須田円吉(祝田75ー9)
本船種の分布範囲
佐須の浜・祝田浜・万石浦の各浜(特に佐須の浜では多く用いられた)
何人乗り 一人乗り
漕法
櫓と船外機(特にこれが主である)
使用漁種
カジカ釣り、ナマコとりが主である



漁場の自然条件 万石浦
かじか(はぜ)は旧8月ー12月まで
なまこひっかけは旧暦9月ー12月まで
調査者 鈴木東行
年月日 平成3年6月20日
平成4年2月21日
主材 杉
別材 ミヨシ…桧 床…檜
シキの厚さ 1寸2分
タナの厚さ 1寸
トダテの厚さ 1寸2分
ミヨシのヒラキ(角度) 7寸
トダテのヒラキ 4寸

No. 27

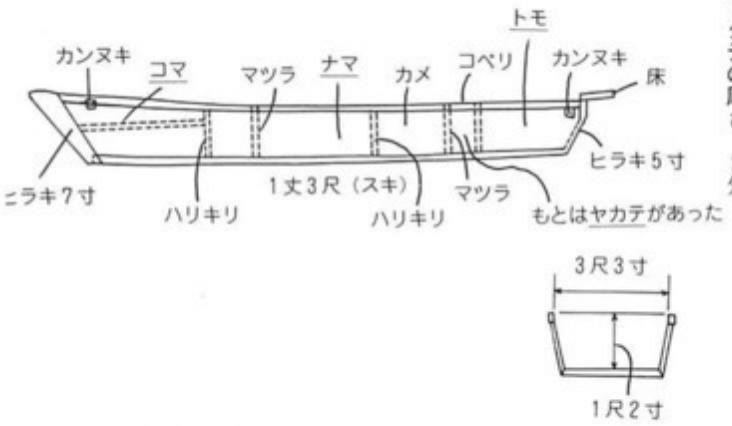
調査地 石巻市塩富町宇田川(「オガワッコ」)船溜り
本船種の地方名 「イッケッコ」
所有者 菊地富士夫
所有者住所 塩富町一丁目4
電話 二四ー一九五四
寸法 シキ長…1丈2尺5寸
船幅…3尺4寸
深さ…1尺1寸7分
造船年月 内海茂(念仏壇41ー1)が塩竈の赤間コウジより五六年前、3艘(ノリツミ船)を買ってきたのの1艘。
本船種の分布範囲
塩竈松島方面(ノリトリ船)↓万石浦
何人乗り 一人乗り
使用漁種 ナマコとり・ワカメとり・カジカ釣り(ジ(ズ)ゾコ釣り)
漁場の自然条件 万石浦
・ナマコとり…11月、12月ガラス(箱メガネ)で水底をのぞき、「ヤスでハル」(竹竿で押す)ことをしながら、ナマコトリカギでひっかきあげる。
・ワカメとり…春4月、5月(新暦)に竿(柄)の長さ一尋から三尋のワカメキリカマを二三本用意し、深さに応じて竿を選び、箱メガネをのぞきながら刈り取りあげる。
・カジカ釣り…新暦9月、10月背あて板で竹竿を背負い竿の先に流されないようにおもりや節に穴をあけ砂を入れる。風や流れの速さに応じて背あて板を強弱に背中で押し、調節する。ミミズやゴカイでジゾコ(数珠)をつくりオモリをつけ竿2本で釣る。
調査者 鈴木東行
年月日 平成4年2月14日
主材 杉 **別材** ミヨシ…けやき
マツラ…けやき **シキの厚さ** 1寸
タナの厚さ 0.9寸
トダテの厚さ 1寸
ミヨシのヒラキ(角度) 7寸5分
トダテのヒラキ 3寸5分



調査地　石巻市塩富町宇田川（「オガワッコ」）船溜り
本船種の地方名　イッケッダナ（「ジョサンコ」）
所有者　菊地徳授
所有者住所　塩富町一丁目4－35
電話　二四－一八三七
寸法
シキ長…1丈3尺（「ジョウサン」）
船幅…3尺3寸
深さ…1尺2寸
造船年月　内海茂（念仏壇41－1）が塩竈の赤間コウジより五六年前（菊地富士夫・菊地徳授用）3艘（ノリツミ船）を買ってきた。
本船種の分布範囲
塩竈松島方面（のノリトリ用船）
この種のノリトリ船は、大正末から昭和はじめ、東京湾の大森の川船（ノリトリ船）に影響をうけてつくられたもので（養殖の普及）、伝統的（三陸）の和船とはいいがたい。（三崎一夫氏談）
何人乗り　一人乗り
漕法　船外機
使用漁種　ナマコ、ワカメ、カジカ釣り
漁場の自然条件　万石浦
調査者　鈴木東行
年月日　平成3年6月20日
平成4年2月15日
主材　杉
別材　杉
シキの厚さ　1寸5分
タナの厚さ　1寸
トダテの厚さ　2分

No. 28

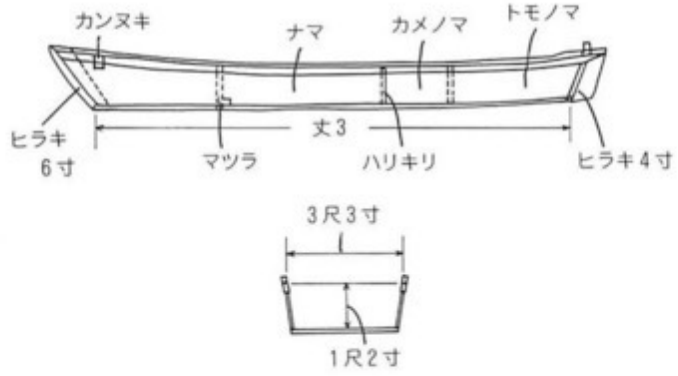
◀箱メガネ（ガラス）とナマコトリカギの竿がのせてある



調査地　石巻市塩富町宇田川（「オガワッコ」）船溜り
本船種の地方名　イッケッダナ（「ジョサンコ」）
所有者　内海茂
所有者住所　念仏壇41－1
電話　二四－一三五八
寸法　シキ長…1丈3尺
船幅…3尺3寸
深さ…1尺2寸
造船年月
五六年前、塩竈の赤間コウジより購入。
塩竈ではノリツミ船であった。
本船種の分布範囲
塩竈松島方面（「ノリトリブネ」）
何人乗り　一人乗り
漕法　船外機
使用漁種　ナマコ、ワカメ、カジカ釣り
漁場の自然条件　万石浦
調査者　鈴木東行
年月日　平成3年6月30日
平成4年2月10日
主材　杉
別材
ミヨシ…杉　マツラ…松　床…けやき
シキの厚さ　1寸
タナの厚さ　8分
トダテの厚さ　1寸5分
ミヨシのヒラキ（角度）　6寸
トダテのヒラキ　4寸

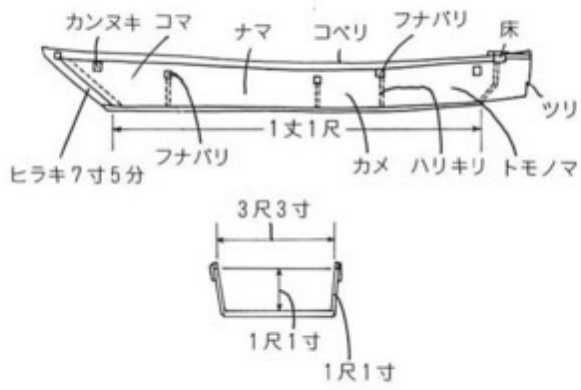
No. 29

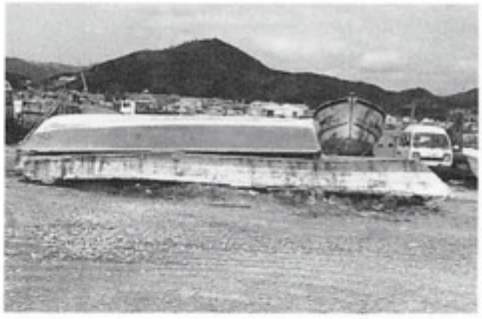
◀現在は写真に見られるように宇田川対岸の沖六勺の遠藤鉄工所の前にある



No. 30

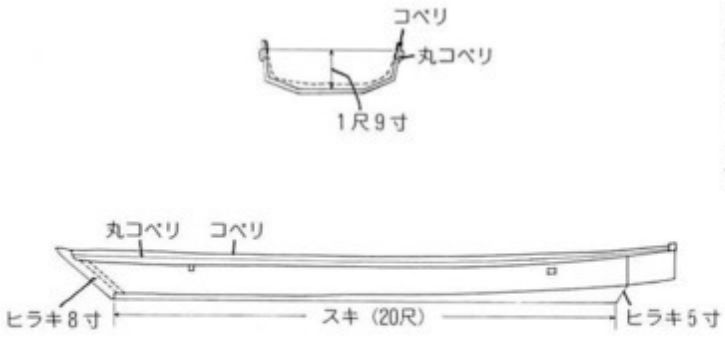
調査地　石巻市沖六勺遠藤鉄工所前の船溜り
本船種の地方名　イッケッコ
所有者　内　海　　茂
電　話　二四－一三五八
寸　法　シキ長…1丈1尺
　　船幅…3尺3寸
　　深さ…1尺1寸
造船年月　20年前尾浦より購入。
本船種の分布範囲　女川町尾浦→万石浦
何人乗り　一人乗り





▲造船まもなく船外機をとりつけたが、つくりはあくまで伝統的櫓櫂型（手漕ぎ型）を保持して造られている

No. 31

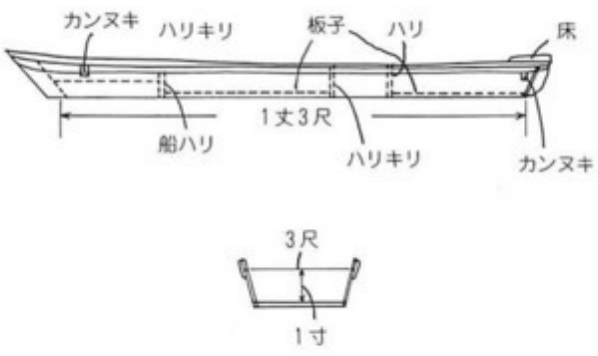


漕　法　櫓と船外機
使用漁種　ナマコとり、ワカメとり
漁場の自然条件　万石浦
調査者　鈴　木　東　行
年月日　平成4年2月15日
主材　杉
シキの厚さ　1寸2分
タナの厚さ　1寸
ミヨシのヒラキ（角度）　7寸5分
トダテのヒラキ　6寸5分

調査地　石巻市祝田77　カキ処理場前空地
本船種の地方名　ダンベ（ハンタナ）
所有者　阿　部　　嵩
所有者住所　祝田71－5
寸　法　シキ長…20尺
　　船幅…5尺2寸5分
　　深さ…1尺9寸
造船年月　昭和45年
船大工　須田円吉（祝田75－9）
本船種の分布範囲　万石浦
何人乗り　二人（父昇が養殖と小漁）
漕　法　櫓と船外機
使用漁種　種かき運搬船
漁場の自然条件　万石浦
祝田の船大工
阿部忠雄→善雄
須田円吉（死亡）→円一（FRP船）
菊田喜代助（死亡）
佐藤勝八郎－弟の文三郎＋（阿部秀男）
杉浦利惣兵衛（死亡）
阿部亀治（死亡）
阿部章（石巻の造船所）
調査者　鈴　木　東　行
年月日　平成4年2月5日・20日
主材　杉
別材　マツラ…松
シキの厚さ　2寸
タナの厚さ　上棚（うわだな）…1尺2寸
　　下棚（しただな）…2寸
ミヨシのヒラキ（角度）
　　8寸（祝田はメヨッシンとも言う）
トダテのヒラキ　5寸

No. 32

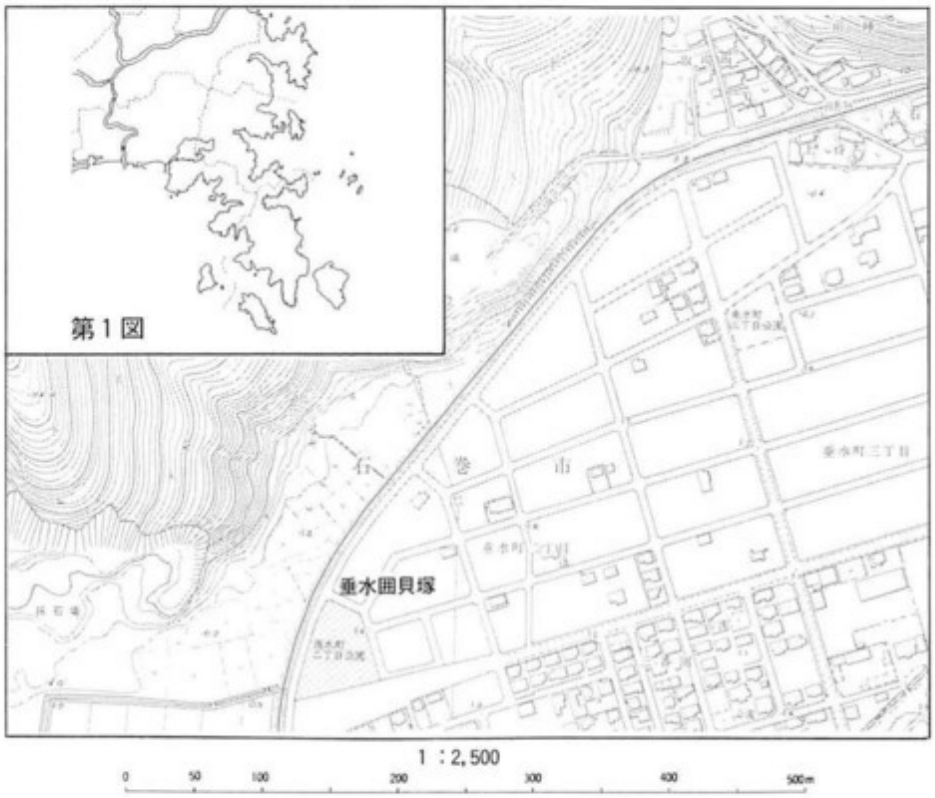
調査地　石巻市梨木畑24－1
本船種の地方名　イッケッコ
所有者　横山国明（大正14.10.16生）
電話　二四－二〇三六
寸法　シキ長…1丈3尺
　船幅…3尺
　深さ…1尺
造船年月
　昭和30年代（チリ津波の前）
登録番号　MG6－544
船大工　菊田喜代助
本船種の分布範囲　万石浦
何人乗り　一人
漕法　櫓↓船外機
使用漁種
ナマコトリ（新11月～3月末）
ワカメトリ（春3・4月）
アサリトリ（2・3月）…向いの瀬でとる。カジカとりはやらない。
漁場の自然条件　万石浦
調査者　鈴木東行
年月日　平成4年2月10日
主材　杉
別材　床…松
シキの厚さ　1寸2分
タナの厚さ　1寸
トダテの厚さ　1寸2分
ミヨシのヒラキ（角度）　7寸
トダテのヒラキ　4寸



注…平成元年に調査した折浜の平塚子之吉所有のイッケッコ（シキ13尺）を平成四年に石巻文化センターに収蔵した。
　また、万石町の橋浦広蔵・祝田の阿部嵩所有のNo.23のダンベ、No.31のダンベ（ハンタナ）も平成五年に収蔵予定。

平成四年度

垂水囲貝塚埋蔵文化財調査報告



第2図　垂水囲貝塚位置図

一、調査実施要綱

【遺跡所在地】
石巻市垂水町二丁目公園地内

【調査対象面積】
二九二七㎡

【調査期間】
平成四年八月二〇日
～九月三〇日

【調査主体】
石巻市教育委員会

【調査担当者】
石巻市教育委員会
社会教育課文化係学芸員
木暮　亮

【調査参加者】
殺田　吉夫　佐藤　心一
勝又　正男　亀山美代子
秋沢ちよ子　西條　芳子
目黒たみ子

二、調査の概要

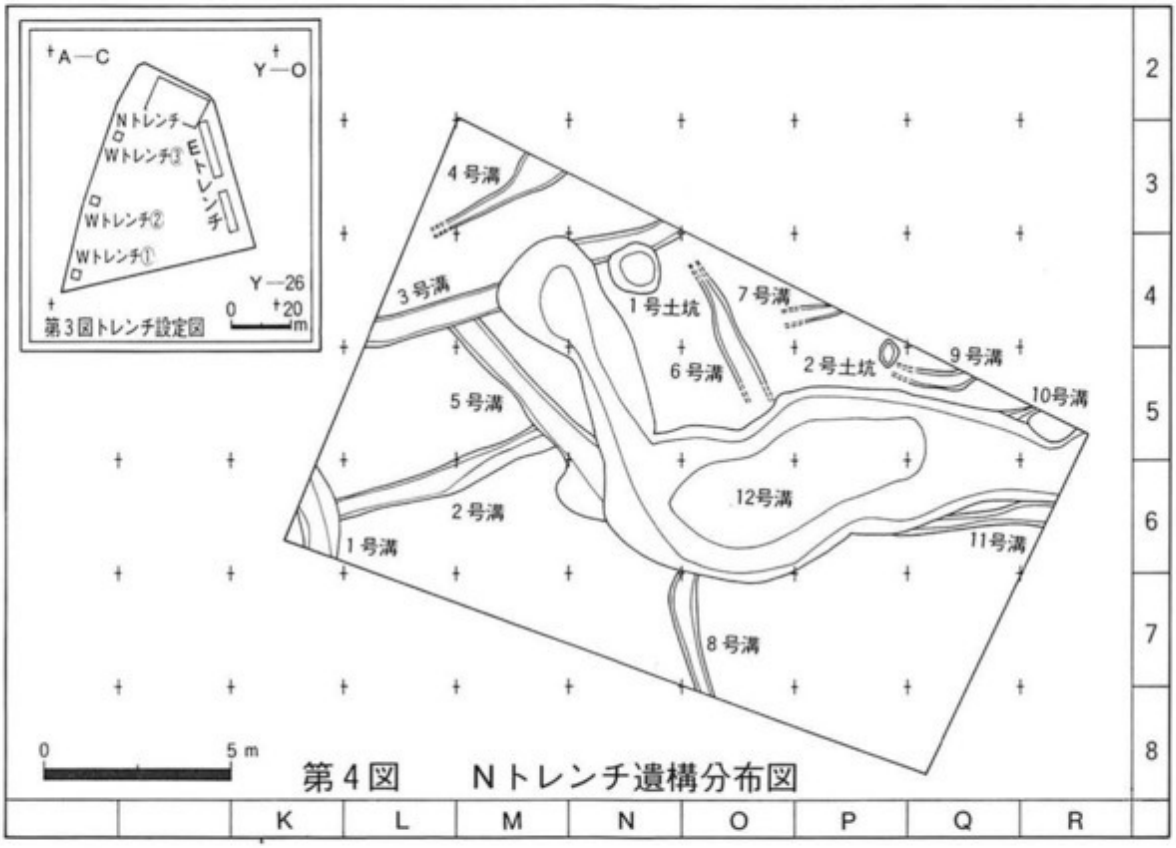
垂水囲貝塚は、万石浦西岸の自然堤防上に位置しており、標高は一・四mを測る。

調査は、垂水町二丁目公園地内の遊具設置に伴う埋蔵文化財調査として実施され、公園の外郭ラインに沿って、合計5つのトレンチを設定し、掘削するに至った。

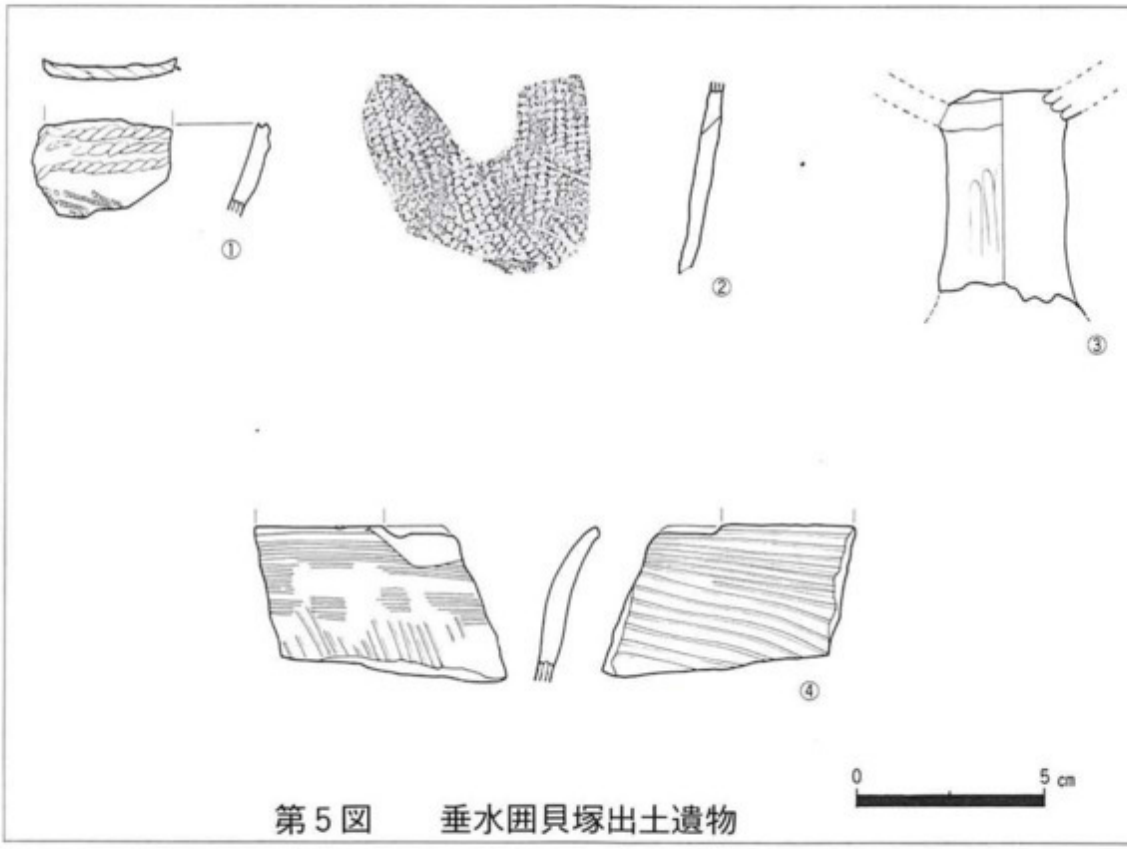
西側（W）トレンチ①～③においては、重機により二・五m程掘り下げた地点で湧水が認められ、遺物、遺構等は全く検出されなかった。

東側（E）トレンチでは、地表下一・一m程で地山に到った。遺物は、土師器破片が若干出土したが、撹乱層からの出土であり、その帰属は判然としない。遺構については溝状遺構を一条検出したが、遺物は出土しておらず、時期は不明である。また、Eトレンチにおいて

遺構名	グリッド	計測値	切り合い関係
第1号溝	K-6	長2.0m×上幅0.9m×下幅0.6m×深0.4m	第2号溝を切る
第2号溝	K-6,L-6,M-6,M-5	長6.0m×上幅0.9m×下幅0.5m×深0.12m	第1、第5号溝に切られる
第3号溝	L-4,M-4	長6.7m×上幅0.7m×下幅0.4m×深0.16m	第5号溝を切り、第12号溝、第1号土坑に切られる
第4号溝	L-3,M-3	長3.3m×上幅0.8m×下幅0.2m×深0.14m	
第5号溝	L-4,M-4,M-5,M-6,N-5,N-6	長5.6m×上幅2.1m×下幅0.9m×深0.14m	第2号溝を切り、第3号溝、第12号溝に切られる
第6号溝	0-4、0-5	長3.1m×上幅0.6m×下幅0.4m×深0.6m	
第7号溝	P-4	長1.0m×上幅0.4m×下幅0.2m×深0.8m	
第8号溝	N-6,N-7,0-6,0-7,0-8	長4.0m×上幅0.7m×下幅0.5m×深0.11m	第12号溝に切られる
第9号溝	Q-5	長1.8m×上幅0.7m×下幅0.4m×深0.13m	
第10号溝	Q-5,R-5	長0.8m×上幅0.6m×下幅0.2m×深0.1m	第12号溝に切られる
第11号溝	P-6,Q-6,R-6	長3.0m×上幅0.7m×下幅0.3m×深0.1m	第12号溝に切られる
第12号溝	M-4,M-5,N-4,N-5,N-6,0-5,0-6,0-7,P-5,P-6,Q-5,Q-6,R-5,R-6	長17.0m×上幅4.6m×下幅2.1m×深0.69m	第3、5、8、10、11号溝を切る
第1号土坑	N-4	（楕円形）長径1.6m×短径1.1m×深0.38m	第3号溝を切る
第2号土坑	P-4,P-5	（楕円形）長径1.0m×短径0.6m×深0.14m	



第4図　Nトレンチ遺構分布図



第5図　垂水囲貝塚出土遺物

調査区全景

もほぼ全面にわたって湧水が認められている。

北側（N）トレンチでは一二条の溝状遺構と二基の土坑を検出した（表・第3図参照）。

遺物については、包含層および第一―三、一二号溝より表杉ノ入式と考えられる土師器破片が出土している。また、第一二号溝を除いた遺構の覆土堆積状況は類似した部分が多いため、Nトレンチ内において検出された遺構については、時期的に大きな差異はないと考えられる。

第一―一一号溝の形態は、断面形が逆台形を呈し、覆土中および底面に硬質な部分は見られなかった。包含層と地山はシルトもしくは砂で構成され、遺構の大部分が後世の攪乱（畝）を受けているため残存状態は極めて悪い。

第一二号溝は今回検出された遺構の中で最も大きな規模を有するもので、覆土を約五〇㎝掘削した時点で青灰色還元性シルト層より大量の湧水が認められた。

三、出土遺物について（第4図）

今回の調査で発見された遺物の時期は奈良時代―平安時代にわたっている。

第4図①は弥生土器破片である。口唇部及び口唇直下に横位に押圧縄文（RL）が施され、その下に細かい縄文（RL）が施文されている。器形は不明であるが、塩釜市崎山囲洞窟の貝層出土土器[1]に類似の文様を有するものがある。時期的には、天王山式期[2]に位置づけられると考えられる。

②は表面採集資料であり、今回の調査で発見されたものではなく、以前に当調査区の西側の畑から採集されたものである。縄文（RL）を地文とする破片で、包含層出土であるため詳細は不明であるが、弥生時代のものと考えられる。

③は南小泉式と考えられる高杯の脚部破片である。

④は表杉ノ入式と考えられる口縁部破片である。表杉ノ入式は当遺跡では最も多く出土しており、溝内の出土が多い。このようなことから、溝状遺構は該期に位置づけられると考えられる。

今回の調査で出土した土器片は、表杉ノ入式が大勢を占めるが、調査区北西約一〇〇mに位置する垂水岩陰からは蔵手刀が出土し[3]、そこから当調査区に到る地域（畑地）からは縄文―中世にかけての土器の散布が認められる[4]。

四、まとめ

今回の調査で得られた結果は次のとおりである。

①遺跡は、北側が高く、南側に向かって緩やかに傾斜している。調査区南側には湧水が認められる。

②検出された遺構の時期は出土遺物より表杉ノ入式期のものと考えられる。

③今回の調査で発見できたのは、溝や土坑のみであったが、遺跡周辺に集落等が存在するとすれば、調査地点よりさらに北側であることが考えられる。

注

（1）伊藤玄三　一九八七　「弥生時代　崎山囲洞窟」『宮城県史』34　資料篇Ⅱ　宮城県史刊行会

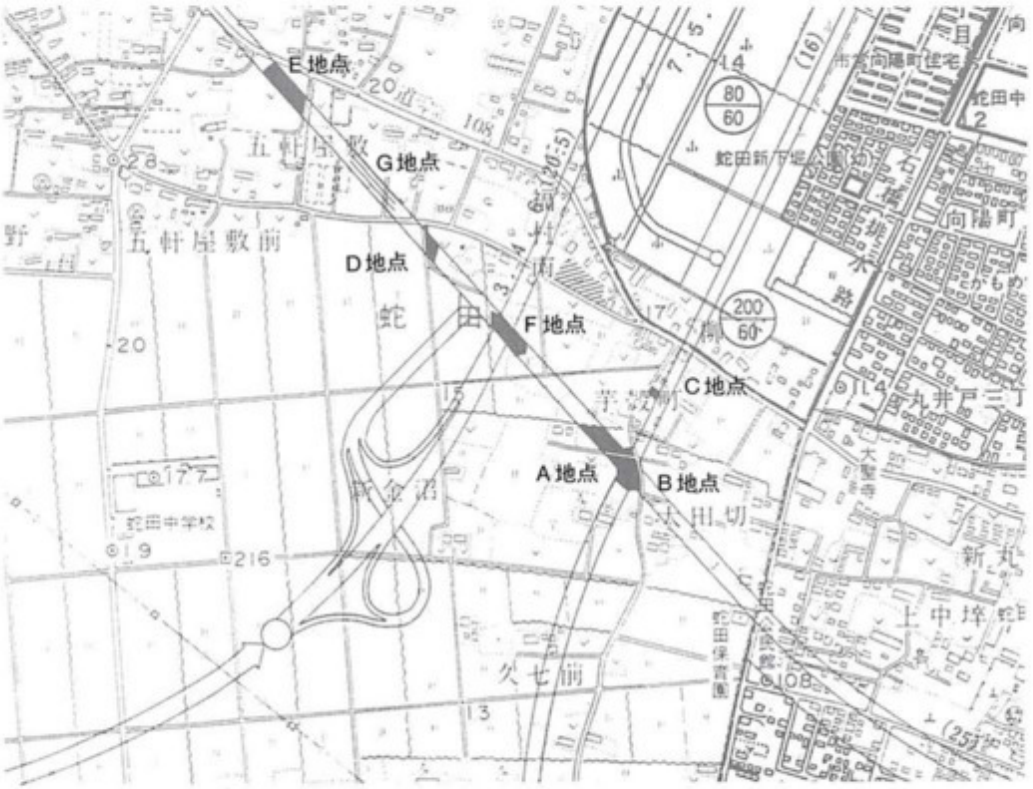
（2）宮城県教育庁文化財保護課藤沼邦彦氏を通じて、東北大学文学部教授須藤隆氏の御教示を受けた。

（3）宮城県石巻高等学校教諭三宅宗議氏によれば、この他に奈良時代の須恵器長頸壺や骨片が発見されている。

（4）石巻文化センター学芸係長中村光一氏の御教示による。

平成四年度

新金沼遺跡埋蔵文化財調査報告



調査地点位置図

一、調査実施要綱

【遺跡所在地】
石巻市蛇田字五軒屋敷地内

【調査対象面積】
三五〇〇㎡

【調査期間】
平成四年一〇月一日
～一一月二日

【調査主体】
石巻市教育委員会

【調査担当者】
石巻市教育委員会
社会教育課文化係学芸員
木暮　亮

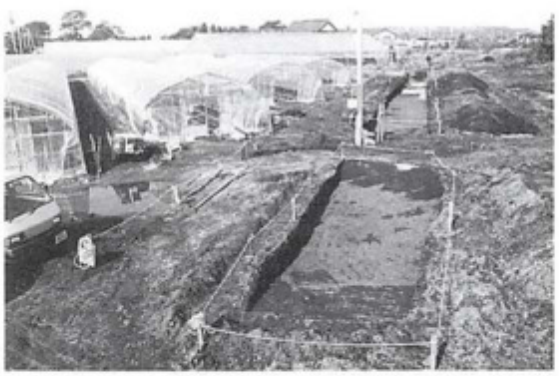
【調査参加者】
殺田　吉夫　佐藤　心一
勝又　正男　亀山美代子
秋沢ちよ子

二、調査の概要

調査は、前年度と同様、仙台湾高規格道路建設にかかるアクセス道（主要県道石巻鹿島台大衡線）建設に伴う埋蔵文化財調査として実施した。

調査区に南東から北西に二本のトレンチを設定し、重機による掘削を行った結果、地表下約五〇㎝～一mで地山に至り、一部には湧水も認められた。

遺物、遺構等は全く確認されなかった。



調査地点（南東から）

調査地点（南から）

新指定文化財紹介

渡波塩田つぼ打ち唄が市指定に

石巻市教育委員会では、平成四年六月一日付けで、渡波塩田つぼ打ち唄を石巻市指定文化財（民俗文化財）に指定しました。これで市指定文化財は二十二件となりました。

種別　民俗文化財

名称　渡波塩田つぼ打ち唄

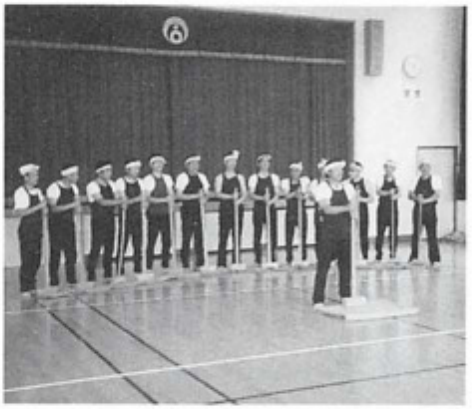
保持者　渡波塩田つぼ打ち唄保存会
会長　阿部　亀雄　他会員十七名

所在地　石巻市流留字赤坂前七番地の一

指定年月日　平成4年6月1日

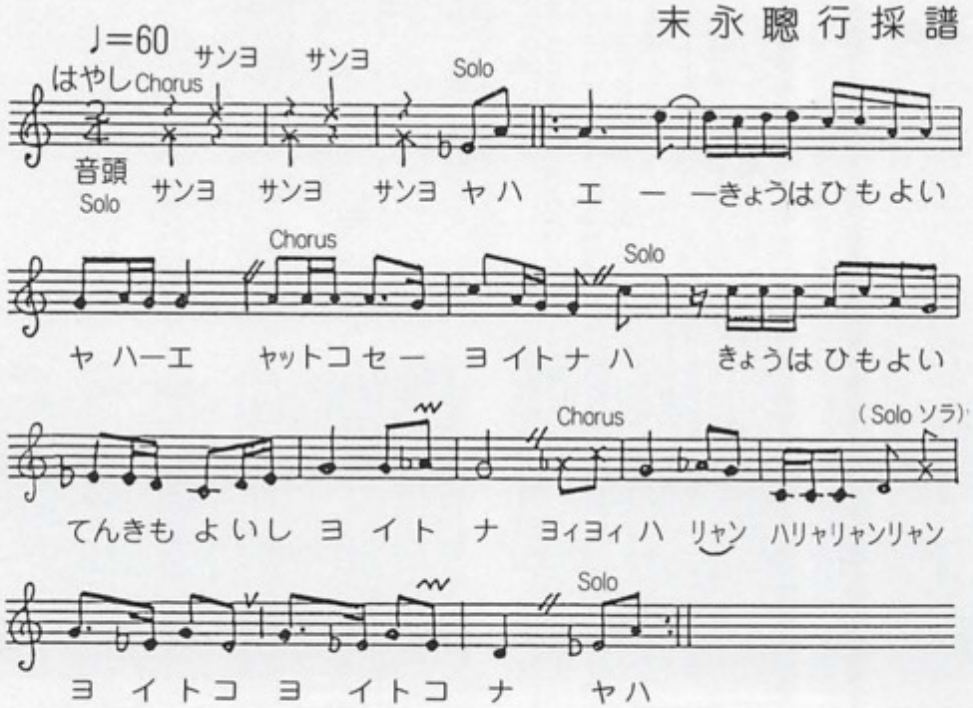
指定の理由

この唄は、江戸時代から昭和三十四年まで続いた渡波流留塩田の作業唄として歌い続けられ、「伊勢音頭」が変容した「土突き唄」の曲調や歌詞に相似しており、テンポの早い切れのよい拍の強い囃子詞が特徴である。現在では、ステージによっての芸態となっているが、音頭取りや受声の唱和も堂々たる風格があり祝い歌にも似た雰囲気をもって、歌唱は洗練されている。石巻市内に残る貴重な民謡であり、また、渡波塩田つぼ打ち唄保存会は、作業の経験者を会員に含めている等この民謡を正しく保持している。



渡波塩田つぼ打ち唄

末永聰行採譜



旧町名表示石柱設置事業

由緒ある町名を後世に

昭和三十七年に「住居表示に関する法律」が制定されてから、昔からの由緒ある町名が新しい町名に置きかえられるようになり、古い町名はそこの住民からも忘れられてしまう状況になりました。石巻市も例外ではありません。町名は、私たちの祖先がその土地とどのようにかかわってきたかを知る重要なてがかりであり、かけがえのない文化財です。

今、日本各地では、町名も文化財であるという認識に立ち、由緒ある町名を何らかの形で保存する運動が起きつつあります。

石巻市教育委員会では、すでに使われなくなった由緒ある町名を後世に伝えるため、古い町名とその由来を石に刻んで建立する事業を昭和五十六年度から行っています。本年度は新設一本、立替えを一本計二本の石柱を設置いたしました。

設置にご協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。

なお、平成二年度に設置いたしました「鰐山」の由来文について不適切な表現がありましたので、下記のとおり訂正します。

明神山

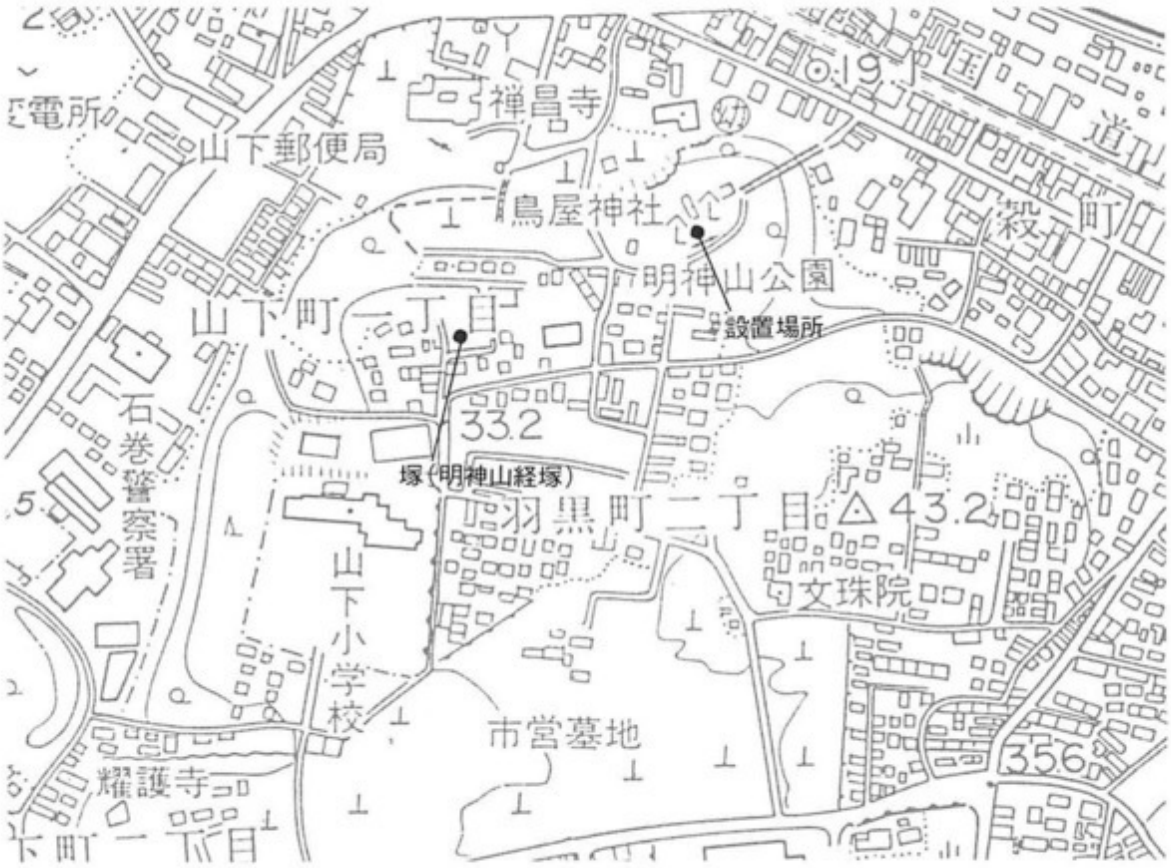
石巻市街の中心にある丘陵の北西部分（現山下町一丁目、穀町の各一部）を明神山といった。この地名のおこりとなった鳥屋明神（現鳥屋神社）は、安永二年（一七七三）の蛇田村風土記書上には、

「（前略）　一村鎮守　一鳥屋明神

一小名　経塚　一勧請　譲勧請と申儀并年月共ニ相知不申候但右明神者牡鹿郡十座之内鳥屋神社ニ御座候由申伝置候事　（後略）」と記されている。この中では、鳥屋明神の所在地を「経塚」と記している。「経塚」の地名は、ここから約一五〇メートル西にある塚に由来すると考えられ、このことは地名も変わることがあるという好例である。

鰐　山

古くはこの丘陵一帯を鰐山といった。鰐山の由来は「鰐子の皇子が征夷大将軍としてこの丘陵に駐留した」ことにちなむ説、古代の牡鹿郡の役人であった丸子（普通マリコ等と読むが、ワニコと読む説もある）一族の居館があったため、あるいは海上から見ると鰐がはっているように見えるからという説がある。ただ、いずれも伝説や後世の付会によるもので、根拠のあることではない。最近まで残っていた鰐山の地名は通称となり、泉町・羽黒町・山下町という新住居表示となっている。



文化財標柱・説明板設置事業

――文化財を大切にしましょう――

石巻市内には、国指定文化財が二つ、県指定文化財が三つ、市指定文化財は二十二件あります。そのほかに約百か所の周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）があります。

石巻市教育委員会では、こうした文化財が存在することをみなさんにおしらせするために、標柱や説明板を設置する事業をすすめています。

これら文化財として指定・登録されている物・土地は、全人類共通の財産です。したがって、こうした文化財の現状を変更しようとするときは、法律や条例にもとづく届け出が必要です。特に周知の埋蔵文化財包蔵地で、土木工事や住宅建設等を計画したときは、できるだけ早い段階で石巻市教育委員会に相談してください。

文化財を保護することは、先祖から伝わった財産を子孫に伝えるだけでなく、我々の世代の文化をも子孫に伝える行為でもあります。したがって目先の利益にとらわれることなく、将来のことを十分に考えて保存・保護と開発を両立させなければなりません。

本年度は標柱三本説明板二基を設置しました。設置にあたりご協力をいただいた関係各位にお礼申し上げます。

【標　柱】

小沢貝塚

標高約三十㍍のこの丘陵の北斜面に、アサリを中心とした貝塚が形成されており、ここからは縄文時代中期から後期にかけて（今から約四千～三千年前）の土器や石器が出土している。

また、この丘陵の突端部下の水田からは、今から約千五百年前と推定される北海道系の土器が発見されている。当時の北海道との文化交流を考える上で、非常に貴重な遺跡である。

田道町遺跡

この遺跡は古墳時代前期（今から約千五百年前）から奈良・平安時代にかけての遺跡である。

平成三年度の調査で、多数の住居跡が発見された。また、奈良・平安時代の銅製帯金具や延暦年間（八世紀末）の木簡が出土していることから、当時ここに何らかの役所と考えられる施設のあったことが推定される。

市指定文化財　木造薬師如来坐像

桃山時代に造られた仏像で、像の高さは三〇．四㎝。寄木造で、両手先は後世に補われたものである。

像底には、「四条東洞院大仏師法眼覚教」が、永禄十一年（一五六八）に造像した旨の墨書があり、桃山時代の仏師の動向を知るうえで貴重な作例である。

【説　明　板】

石川啄木歌碑について

天然の良港を持つ荻浜は、明治一四年（一八八一）から大正六年（一九一七）まで三十六年間、日本郵船横浜函館間定期便航路の寄港地として、全盛時には旅館十数軒を数えるほど繁栄したところですが、明治の中期、東北本線の全線開通を機に再び衰勢の道をたどりました。

薄幸の詩人石川啄木は奇しくも明治四一年四月二十六日朝七時、釧路から海路上京途中「三河丸」でこの地に立ち寄りました。大森屋旅館で給仕に出た佐藤藤野さんと雑談を交わしながら朝食をとり、鶯が鳴き、椿の花が満開の琴平社に登り、港を眺め、わずか五時間の「今年の私の春」を楽しんだのです。

上京後間もなく書いた自伝小説「二筋の血」に、その宿で出会った少女「藤野」がヒロイン名として登場しており、また

港町　とろろとなきて　輪を描く
　　鳶を圧せる　潮曇りかな
漂泊の　人はかぞえぬ
　　風青き　越の峠にあひし少女も

など、歌稿ノート「暇十時」に収められている一連の歌は、啄木が荻浜をいとしんだ回想歌です。

この歌碑は、啄木生誕九十周年を記念して、啄木歌碑建設委員会、仙台啄木会と、全国の啄木を敬愛する多くの方々のご協力により建てられたものですが、碑の文字は「暇十時」に書き残した啄木直筆を拡大して刻したものです。

旧毛利邸

近世の石巻は、江戸廻米が実施されるとともに、その積み出し港として大きくなりました。ここ住吉には、享保二年（一七一七）一八棟の米蔵が建てられました。毛利家は、代々住吉米蔵の蔵守を勤めた家です。

この旧毛利邸は毛利家第十一代七蔵か、十二代利兵衛によって、今から百二十年以上前に建てられたと推定されています。

建物は一部二階建で、道路に面した部分は、以前店舗として利用されたために改造されています。しかし、特に二階部分は床の間、違棚、天袋、面皮柱や面皮長押など高級材が使用されており、趣向を凝らした当時の面影が残っています。

明治維新の時、榎本武揚を筆頭とする反政府軍は、軍艦「開陽」以下七隻で寒風沢に集結。その後、折浜に停泊して石巻に上陸しました。榎本武揚、土方蔵三、星恂太郎等は、この旧毛利邸の二階座敷に陣取ったのです。そして石巻は北進してきた明治政府軍との一触即発の危機を迎えました。その危機を救ったのが、仙台藩士細谷十太夫直英です。細谷は当時の毛利家当主毛利理惣治とともに、榎本武揚等に対して大量の物資食料を調達しました。そして榎本艦隊は、明治元年十月十二日に折浜を出航し、北海道へと向かいました。

この旧毛利邸の二階座敷には、激昂した土方蔵三が刀できりつけたといわれている柱の傷が残されています。

平成四年度文化財めぐり

平成四年度の文化財めぐりは、第一回石巻市内住吉・石巻地区、第二回岩手県北上・水沢市、第三回登米町へ出向き、各地の文化財を見学し、参加された方々からも御好評を得ることができました。

本年から受付の方法が先着順から抽選に変更させていただきました。例年どおりたくさんのご応募をいただきましたが、残念ながら参加できなかった方々が多数ございましたことを深くお詫び申し上げます。

第一回文化財めぐり

近世の石仏をたずねて

月　日　十月十八日（日）
講　師　佐藤雄一石巻市文化財保護委員
参加者　二十四人

当日は、秋晴れの素晴らしい天候に恵まれ、またとない文化財めぐりの日和となりました。

朝八時五十五分に住吉公園に集合し、住吉ポンプ場脇のかすがい地蔵から廣済寺をめぐり、旭町鳥屋神社から松尾神社、久円寺へぬけ、鋳銭場延命地蔵、寿福寺、永巌寺不動堂を見学し、昼の十二時三十分に解散しました。

全行程5㎞の道のりでしたが、全員元気に歩いて見学することができました。

第二回文化財めぐり

北上川流域の文化財を尋ねて

月　日　十一月八日（日）
講　師　石垣宏　石巻市文化財保護委員
参加者　四十三人

この日は、北上川を通して石巻と深いつながりのあった岩手県南部の水沢市・北上市の文化財を見学することになりました。

見学当日は、前日までの雨がうそのように晴れ渡り、絶好の見学日和となりました。

朝八時に石巻市役所の玄関に集合し、観光バスで東北自動車道の古川インターチェンジから北上インターチェンジへと抜け、はじめに北上市立博物館とみちのく民俗村を見学しました。

展勝地で北上川の清らかな流れを楽しみながら昼食をとり、胆沢城から水沢へ抜け、斉藤實記念館、高野長英記念館を見学し、帰路につきました。

石巻到着は夕方の六時近くでしたが、帰りのバスの中で北上夜曲を皆で歌い、盛況のうちに石巻へ帰ってきました。

第三回文化財めぐり

とよまの里を訪ねて

月　日　十一月十三日（金）
講　師　石垣宏　石巻市文化財保護委員
参加者　二十四人

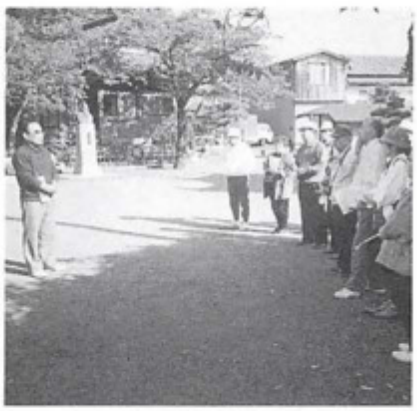
十一月の少し肌寒い日でしたが、朝九時に二十四人の見学者が皆元気に石巻市役所前をマイクロバスで出発しました。

バスは天王橋を渡り、飯野川を抜け、まずは津山町の柳津虚空蔵尊に立ち寄りました。

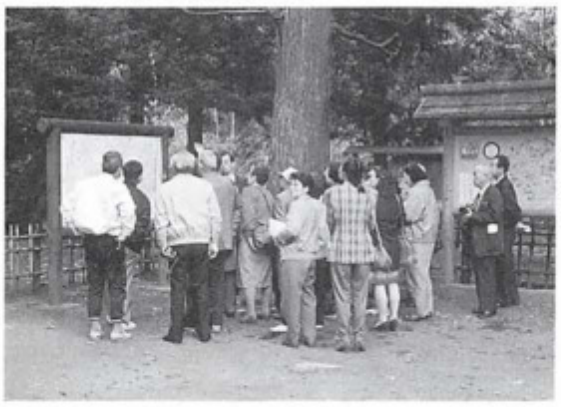
登米に到着したのが十時十五分、始めに警察資料館、次いで春蘭亭で休憩をとり、水沢県庁記念館に向かいました。

午後は東海亭での昼食の後、旧登米高等尋常小学校、覚乗寺高台院霊屋、寺池城跡を見学し、懐古館をあとにして帰路につきました。

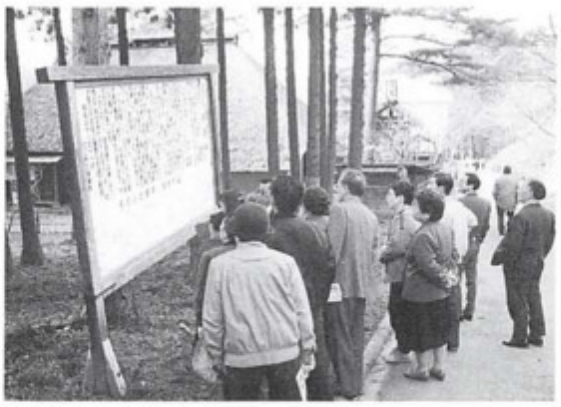
帰り道では、津山町の「もくもくハウス」に立ち寄り、おみやげを買った後、夕方四時に石巻に戻ってきました。



▲第一回 文化財めぐり



◀第三回 文化財だより



◀第二回 文化財だより

北海道系の土器（続縄文土器が）発見されました

石巻市教育委員会社会教育課

一、発見の場所

石巻市高木（小沢貝塚隣接地）

二、発見された北海道系（続縄文）土器

注口土器の注口部（後北C2-D式）[1]

他二点

三、発見の経過及び状況

平成四年春、石巻市議会議員三浦暘悦氏から教育委員会社会教育課へ、高木の小沢貝塚近くから土器が出土した旨の通報があった。早速社会教育課職員が三浦氏と現地を確認したところ、圃場整備を終えた水田畦の断面等から少量の土器・須恵器片を採集した。これらの土器片等を水洗し、時期の確認を行ったところ、うち三点が続縄文の土器片であることが判明しました。

四、続縄文文化について

続縄文文化とは、九州・四国・本州において縄文時代が終わり弥生時代になったときに北海道で起こった文化で、縄文文化の流れをくみ、海川での漁労と狩猟・採集を主たる生業とした文化です。年代は、九州・四国・本州における弥生時代と古墳時代にほぼ並行し、紀元前二百年頃から八世紀頃まで続いたといわれています。[2]

そして、こうした北海道系の続縄文文化に属する土器は、北海道のみならず、東北地方からも出土しています。[3]

五、発見地点の位置と環境

発見地点は、石巻市城の北東部、高木地区の小沢である。高木地区は、昭和42年（一九六七）に石巻市に合併する前は、旧牡鹿郡稲井町に属し、その前は稲井村、近世は高木村であった。

高木及び旧稲井町地区は、遺跡の宝庫で国指定史跡沼津貝塚をはじめ多くの埋蔵文化財包蔵地が登録されている。発見地点は、丘陵の裾部をめぐる道路下の水田畦である。この丘陵は、北上山地南端部にあたり、南西方向に舌状に突き出し、頂部の標高は約三十㍍である。そして、この丘陵全域は中世の館跡「三日防館跡」であり、北西斜面は、縄文中後期と奈良平安時代の遺物が表採できる小沢貝塚となっている。また、発見地点北約四百㍍には縄文晩期の寺前貝塚がある。

地形をみると、北から西は上品山（四六七．八㍍）、龍峰山（三四七．五㍍）の丘陵が連なり、東と南は水田地帯であり、そこを雄勝峠に水源を持つ真野川が北東から南西に向かって流れ、北上川に合流している。なお、古代中世において、北上川は、石巻湾には流下していなかったという説が、かつてあったが、現在では否定されている。[4]

また、後北式と並行するといわれる古墳時代の遺物を確認している遺跡には、前出の沼津貝塚をはじめ、田道町遺跡、越田台遺跡、五松山洞窟遺跡、清水尻遺跡、新金沼遺跡、西三軒屋遺跡、垂水囲貝塚、新山崎遺跡がある。

六、発見の意義

今回の続縄文土器片の発見は、石巻周辺地区でははじめての発見です。こうした続縄文土器は、岩手県・宮城県の北上川とその支流流域で割合に多く見つかっています。[5]今回の発見で、北上川の河口付近まで分布することが実証されました。また、三陸沿岸部では出土例が少なく貴重な発見といえましょう。

古代の北海道系の遺物が、石巻地域で発見されたことは、その両地域が、何らかの形で結ばれていたことを証明するものです。

ただ、それが交易等間接的なものか、直接人の往来があったのか、また、その主たるルートが北上川・馬渕川等を通った内陸方面のルートであったのか、海で直接つながっていたのか、あるいは両方であったのか等は、今後の課題です。

本稿作成にあたり左記の方々、機関から種々のご協力・ご教示を賜りました。記して感謝申し上げます。

三浦暘悦
藤沼邦彦
茂木好光
中村光一
東北歴史資料館
宮城県教育庁文化財保護課
石巻市建設部道路課
石巻文化センター

注）

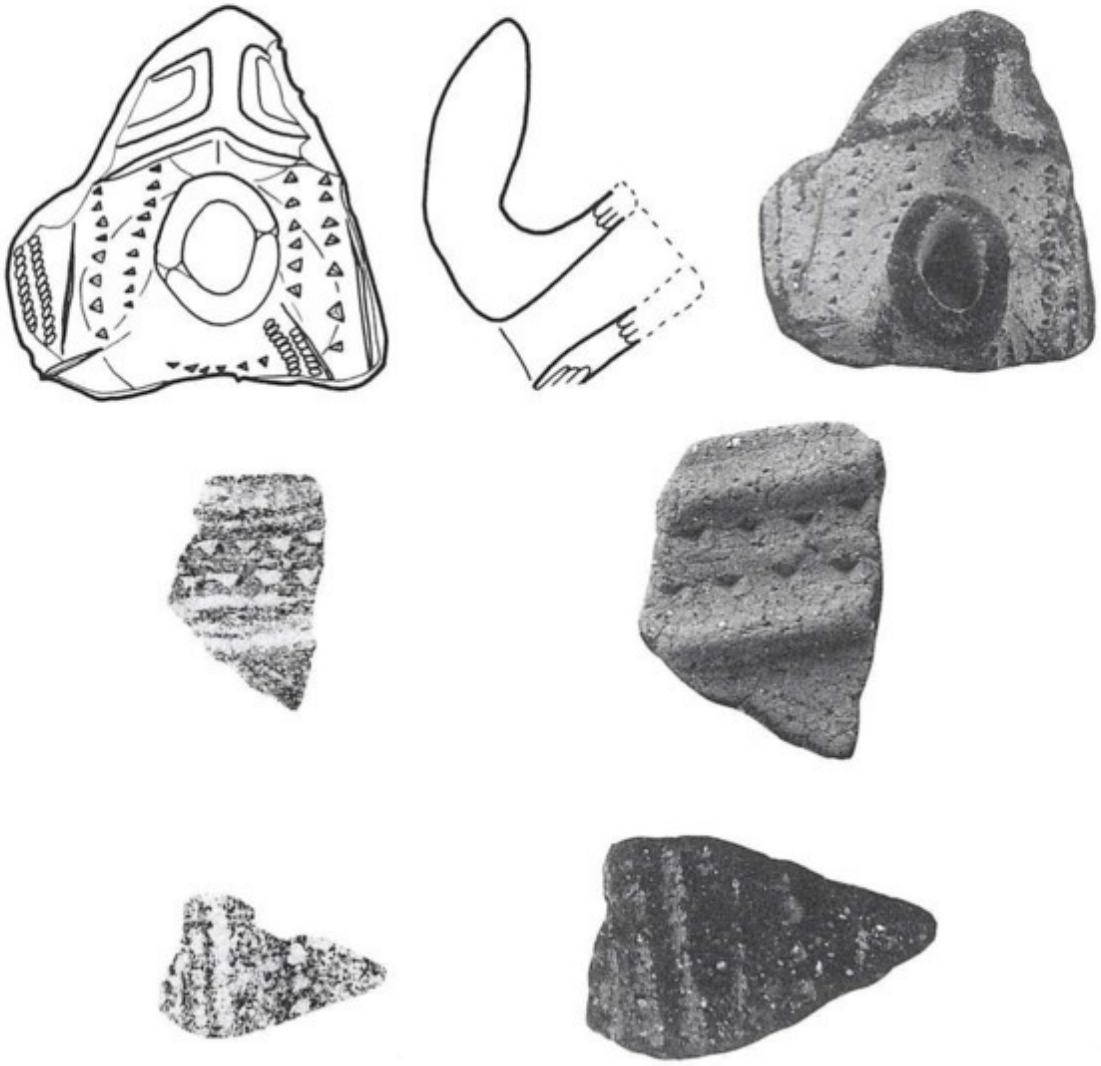
(1) 続縄文土器の形式名は、いまだ統一されてない。本稿では、とりあえず河野広道氏の分類である「後北式」の名称を使っておく。

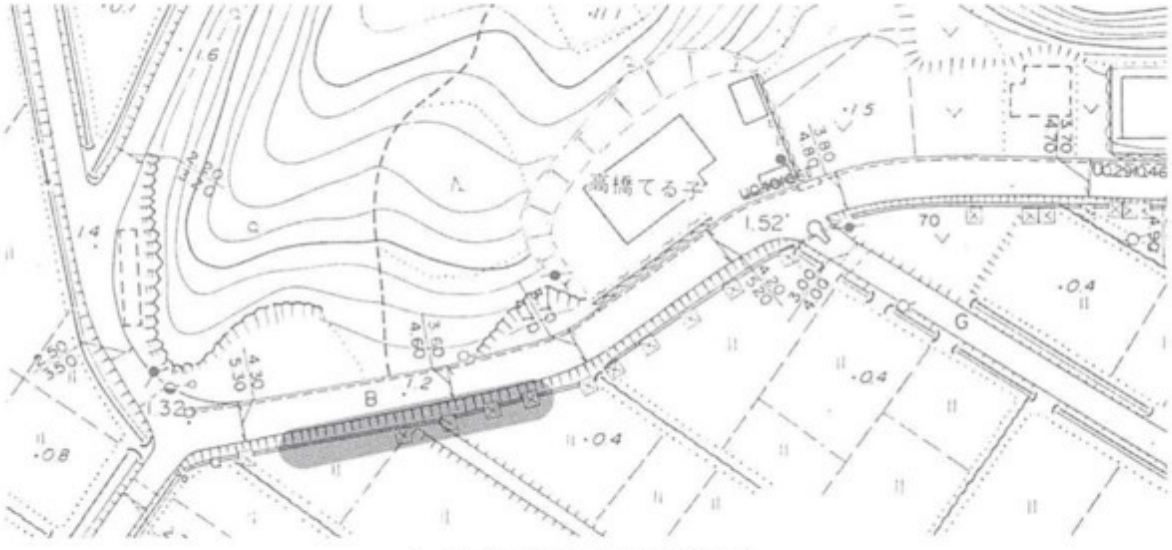
(2) 佐藤信行「宮城県内の北海道系の遺物」『宮城の研究』1考古学編 一九八四

(3) 注(2)に同

(4) 『河北町誌』下巻 一九七九

(5) 注(2)に同





▲発見場所（アミの部分）

石巻市内の弥生～古墳時代の遺跡

No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名
1	沼津貝塚	7	西三軒屋遺跡	13	梨木畑貝塚
2	田道町遺跡	8	垂水囲貝塚	14	磯田貝塚
3	越田台遺跡	9	新山崎遺跡	15	一本杉貝塚
4	五松山洞窟遺跡	10	小沢貝塚	16	際遺跡
5	清水尻遺跡	11	寺前貝塚	17	伊原津洞窟遺跡
6	新金沼遺跡	12	韮塚貝塚	18	鹿松貝塚

石巻市内所在指定文化財一覧

(平成5年3月現在)

＜国指定文化財＞

名称	員数	指定年月日	所在地	所有者	時代
重要文化財 岩版	1	昭36.2.1	石巻市住吉町一丁目8－29	毛利 伸	縄文
史跡 沼津貝塚	1	昭47.10.21	石巻市沼津字出外		縄文～弥生

＜県指定文化財＞

名称	員数	指定年月日	所在地	所有者	時代
牡鹿法印神楽	1	昭46.3.2	石巻市湊字牧山1－1	(代表) 桜谷守雄	近世
仁斗田貝塚	1	昭50.4.30	石巻市大字田代浜字仁斗田		縄文
鳥屋神社奉納絵馬『奥州石巻ノ図』	1	昭63.11.29	石巻市羽黒町一丁目7－1	鳥屋神社	近世

＜市指定文化財＞

名称	員数	指定年月日	所在地	所有者	時代
多福院板碑群	88	昭50.6.1	石巻市吉野町一丁目1－9	多福院	中世
平塚ツナ家文書	739	(第1次) 昭51.6.1 (第2次) 昭53.4.1	石巻市南浜町一丁目7－30	石巻市	近世
旧石巻ハリストス正教会教会堂		昭55.12.20	石巻市中瀬3－18	石巻市	近代
潮音	1	昭55.12.20	石巻市南浜町一丁目7－30	石巻市	現代
イチョウ(吉祥寺)	2	昭55.12.20	石巻市高木字寺前48	吉祥寺	
イチョウ(龍泉院)	1	昭55.12.20	石巻市水沼字天似113	龍泉院	
葛西椀	3	昭56.5.18	石巻市大瓜字棚橋168	龍洞院	中世
黒潮閑日	1	昭56.5.18	石巻市南浜町一丁目7－30	石巻市	現代
石巻市渡波獅子風流	1	昭56.12.19	石巻市渡波字西ケ崎11	(代表) 阿部慶志	
漁夫像	1	昭57.12.15	石巻市南浜町一丁目7－30	石巻市	現代
宝筐印塔	1	昭61.12.1	石巻市湊字牧山5番地	零羊崎神社	
相輪	1	昭61.12.1	石巻市湊字牧山5番地	零羊崎神社	
零羊崎神社奉納絵馬(白馬の図)	1	昭61.12.1	石巻市湊字牧山5番地	零羊崎神社	
零羊崎神社奉納絵馬(黒馬の図)	1	昭61.12.1	石巻市湊字牧山5番地	零羊崎神社	
長禅寺「扁額」	1	昭61.12.1	石巻市湊字牧山5番地	零羊崎神社	
銅造菩薩立像	1	平元 7.31	石巻市渡波字仁田山2	洞源院	古代
銅造薬師如来立像	1	平元 7.31	石巻市高木字竹下75	日野孝栄	中世
銅造阿弥陀如来立像	1	平元 7.31	石巻市高木字竹下75	日野孝栄	中世
銅造観音菩薩立像	1	平元 7.31	石巻市高木字竹下75	日野孝栄	中世
木造観音菩薩坐像	1	平元 7.31	石巻市羽黒町一丁目1－27	永巌寺	古代・中世
木造薬師如来坐像	1	平元 7.31	石巻市真野字堂原2	長谷寺	中世
渡波塩田つぼ打ち唄	1	平4.6.1	石巻市流留字赤坂前7－1	阿部亀雄	

石巻市文化財だより（第22号）

平成５年３月29日　印刷
平成５年３月29日　発行

発行：石巻市教育委員会
石巻市日和が丘一丁目１番１号
電話（0225）95-1111 内線 345

印刷：株式会社 鈴木印刷所
石巻市蛇田字新谷地前121
電話（0225）22-4101